

「キャンパス・アジア」モニタリング 自己分析書

平成25年5月

「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた
中核的人材育成プログラム」

岡山大学

<目 次>

I	構想にかかる基本情報および目的、進捗状況	
1.	基本情報	1
2.	構想の目的、概要、進捗状況	1
II	基準ごとの自己分析	
基準1	教育プログラムの目的	4
基準2	教育の実施	
基準2-1	実施体制	5
基準2-2	教育内容・方法	7
基準2-3	学習・生活支援	9
基準2-4	単位互換・成績評価	11
基準3	学習成果	13
基準4	内部質保証システム	14

I 構想にかかる基本情報および目的、進捗状況

1. 基本情報

1. 大学名	岡山大学	
2. 構想名称	【和文】	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム
	【英文】	Program for Core Human Resources Development: For the Achievement of Common Good and Re-evaluation of Classical Culture in East Asia
3. 取組学部・研究科等名	全学[学部:文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、環境理工学部、農学部、マッチングプログラムコース、大学院:教育学研究科、社会文化科学研究科、自然科学研究科、保健学研究科、環境学研究科、医歯薬学総合研究科]	
4. 海外の相手大学	【中国】	吉林大学
	【韓国】	成均館大学校

2. 構想の目的、概要、進捗状況

○構想の目的及び概要

【背景】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校は、これまで部分的にはあるがコンソーシアム協定を締結し、ダブルディグリー制度、共通講義、短期留学(単位互換)制度など、先進的でユニークな交流の実績と経験を積んできた。吉林大学は、歴史的に日本文化との接触が深く、日本語教育、日本研究の層が厚い。また、地理的、歴史的に韓国とのネットワークも緊密である。また、成均館大学校は高麗の成均館を母体とした韓国最古の大学で、韓国文化と思想を代表する大学であると同時に、現代韓国を研究する上での拠点校でもある。岡山大学は、アジア共通の課題である省エネ・再生エネルギーの活用、循環型社会の形成、有機物質の研究、臓器移植、癌遺伝子の研究などで成果を上げているとともに、東アジア国際協力・教育研究センターを中心に、東アジアの政治、経済、文化、価値観の研究に取り組んでいる。

【目的】

この3校が、共同教育システムの実績をもとに、協力し課題を克服できる次世代の中核人材育成を実施する。具体的には、国際的な視野を持ちながら、同時に地域の文化に精通し、そして深い伝統的な教養をもったアジアネットワーク(地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、技術開発、生産、販売のすべて面で3国の協業をリードできる企業中堅幹部候補、また環境、エネルギー、循環型社会の構築など、現代社会が抱える問題でリーダーシップのとれる人材の輩出を目指す。

【概要】

本プログラムでは、つぎのプログラムを実現する：(1)3国が共通で抱える課題等を学習素材としたサマーセミナーを開催する。(2)3大学持ち回りの年次国際合同会議の一環として3校の学生が共通の場で講義を受け討論（共同ワークショップ）を行うと同時に、個別チュートリアルを実施することにより、異文化理解、コミュニケーション能力を向上させる。(3)共通学務委員会（スタッフ・ミーティング）を設置し、教育ガイドライン、単位相互認定制度、ピアレビューを導入して、教育プログラムの可視化と高い互換性を確立する。(4)外部専門家による「インターナショナル・レビュー」を立ち上げて実施状況を検証する。(5)定期的に開催するリージョナル・カンファレンス、地域および企業と連携して行うフィールドセミナー、インターンシップを通じ、課題解決型教育を実践する。

岡山大学・吉林大学間では、(1)博士課程前期・後期ダブルディグリー制度、(2)短期留学（単位互換）制度、(3)共通科目の実施、を実現している。さらに、吉林大学において中国語の、また岡山大学言語教育センターにおいて日本語の語学研修を実施している。岡山大学・成均館大学校間では、短期留学と単位認定制度がある。また、吉林大学・成均館大学校間では、ジョイントディグリー、短期留学が実施されている。本プログラムは、こうした既存の制度と経験の蓄積の上に実施するものである。また、岡山大学が既に実施している「アゴラ」（地域社会、産業界とのコミュニケーションと共同事業の場）をモデルに、リージョナル・カンファレンス、フィールドセミナーを実施し、地域に必要な人材を育成する。同時に、各地域が直面する課題を実践的に学ぶことによって、課題解決能力を育成し、将来において地域の中核となり、地域相互の交流促進できる人材を育成する。さらに、卒業・修了後の就職・研究フォローアップ・システムを立ち上げて、育成した人材が地域で活躍できるようサポートする。

○平成24年度末までの取組状況

【基準1：教育プログラムの目的】

a)教育プログラムの目的(育成する人材像を含む)の設定

- ・プログラムの目的が、育成する人材像に求められる知識・態度等の学習成果が明確に定められている。
- ・海外大学との国際的な共同による教育が必要であることが明確な目的となっている。

b)教育プログラムの目的の大学間での共有

- ・教育プログラムの目的が自大学の目的や国際化戦略中に位置づけられ、関係者に共有されている。

【基準2-1：実施体制】

a)組織体制

- ・参加大学間で会合等を行い、プログラムの運営方法や課題等を検討する体制が構築され、機能している。
- ・研究指導を行う場合には、参加大学間で指導教員体制が適切に構築され、連携が機能している。

b)教職員

- ・共同教育プログラムの目的や教育内容・水準に適合した教員が配置されている。特に外国教員を含め、海外大学での教育経験を有する国際的な対応能力が高い教職員が配置されている。

【基準2-2：教育内容・方法】

a)教育内容・教育方法

- ・各国の言語や文化・社会の教育が効果的に行われている。

b)学生受け入れ

- ・学生選抜の方法を教育プログラムの目的や教育内容を踏まえて、参加大学間で共同し運用している。
- ・参加希望者が適切な人数存在し、参加学生数の双方向性が実際に確保されている。
- ・実際に受け入れた学生の構成やその学力水準が、教育プログラムの目的や教育内容に適合している。

【基準 2-3 :学習・生活支援】

a) 学習支援

- ・シラバスが明確に作成され活用されるとともに、学生に対して派遣前の履修指導を適切に実施している。
- ・自大学から派遣する学生に対して事前の語学研修やチューターの活用による追加指導を実施している。
- ・海外から受け入れる外国人学生に対して履修指導、教育支援者・チャーターの配置、諸手続の支援等の各種の学習支援を実施している。

b) 生活支援

- ・参加学生に奨学金等の財政的支援や宿舍等の情報を事前に提供するとともに、ほとんどの参加学生にこれらの支援を提供できている。
- ・自大学から派遣する学生に対して、事前に派遣先での生活支援の状況を適切に伝達するとともに派遣先での遠隔でのカウンセリング等、災害時等のリスク管理の生活支援をおこなっている。
- ・参加している学生間での交流支援、キャンパス・アジアクラブ組織の形成を支援している。

【基準 2-4 :単位互換・成績評価】

a) 単位認定・互換

- ・海外大学で取得した単位について、その教育内容を踏まえて単位互換を行うシステムが構築されている。
- ・単位制度の違いや相手大学での科目履修順序等を踏まえた上で、適切な単位互換を機能させている。

b) 成績評価・学位授与

- ・参加大学において成績評価方法について調整を行うとともに、各参加大学にて厳格な成績評価が行われ、単位の実施化が図られている。

【基準 3 :学習成果】

a) 学習成果の測定と結果

- ・参加学生の単位取得の状況を把握することにより、学生の学習状況を分析している。
- ・国際的な共同を行うことによって実現される学習成果が得られている。

b) プログラム履修後の状況

- ・長期・短期留学において、留学終了後の調査を行い、その結果を教育内容や指導方法の改善へ活用。

【基準 4 :内部質保証システム】

a) 内部質保証システムの体制

- ・学生からの定期的な意見聴取を実施している。
- ・自大学のもとで、定期的に外部者によるレビューが行われている。
- ・当該プログラムの教育内容や学生の学習成果・教育成果の情報を適切な形で公表・発信することにより、社会で広く理解されるようになっている。

b) 改善実績・将来計画

- ・レビュー結果が学内の国際関係部署・学生支援部署等において検討され、必要な措置が講じられている。
- ・国際的な共同プログラムを行うことによって、自大学の国際化や他の教育への影響を及ぼすことが意図されており、実際に優れた影響が得られている。

Ⅱ 基準ごとの自己分析

基準 1 教育プログラムの目的
海外大学との共同教育プログラムの目的が明確に定められ、参加大学の間で共有されているか。

1. 基準 1 に係る現況の説明

本構想においては、人文・社会科学系においても自然・医歯薬系においても、東アジアにおける相互理解と共通課題に取り組む基礎を作るために、共同教育が重要であるという認識に立ってプログラムを遂行してきた。その際、相互理解や共通課題への協力をどのように構築するかが大きなテーマで、具体的には吉林大学及び成均館大学校との共同教育のベースである「共通善」をそれぞれがどのように認識するかということから議論を開始した。具体的には、3校の代表を中心とした共通善教育研究会を通じて意見交換を重ねてきた。研究会は、平成 24 年 5 月・8 月・12 月に実施され、また平成 24 年 11 月 3 日、4 日には共通善研究フォーラム、平成 25 年 3 月 5 日、6 日には共通善研究国際シンポジウムが開催され、研究成果が報告された(『共通善教育研究国際シンポジウム報告集』、『共通善研究国際フォーラム 研究報告集Ⅰ、Ⅱ』、他)。

こうした議論の成果は、日中韓の共通教科書にまとめられる。これは、共通の歴史認識や価値観を纏めるというのではなく、お互いの価値観の相違や異なる主張の根拠を相互に理解することにより、相互の信頼感を醸成していこうという試みである。この教科書に基づいて各国で共通の共同教育プログラムが組まれることになるが、講義の中身は必ずしも同じになるという訳ではない。平成 24 年度には、「共通善」教科書の第 1 章となるプロローグ(4カ国語)の編纂を済ませた。

この第 1 号の教科書をもとに、入講式、サマーセミナーやリージョナルカンファレンスの実施に際し、日中韓の学生に対し東アジアにおける「共通善」の講義を実施しており、学生にも「共通善」についての認識が深まりつつある。

以上のことから、基準 1 における当プログラムの質の段階は「進展している」と自己判定している。

2. 今後の課題点

平成 25 年 5 月末をめどに、共通善教育研究会の東アジア伝統的思想部会、歴史部会、現代の課題部会の 3 分野から教科書の下敷きとなる原稿を提出してもらう予定だが、これらの原稿をどのように検討して教科書に仕上げるかが最後の課題として残っている。つまり、執筆者の氏名を残し内容については個人の責任に帰すようにするか、研究会、またはキャンパス・アジアとして責任を持って編纂していくかの詰めがまだ行われていない。

基準 2 教育の実施
基準 2－1 実施体制
目的を達成するための体制が、参加大学等の間で適切に構築され、機能しているか。

1. 基準 2－1 に係る現況の説明

a)組織体制

岡山大学、吉林大学、成均館大学校の間では、毎年3月に合同会議を開催し、プログラムの運営方法や課題等を討議している。ただし、平成24年度においては、3国間の政治関係が悪化したため、予定していた大規模な合同会議が開けなかった。その代替策として、岡山大学のスタッフが成均館大学を訪問し(吉林大学もこれに合わせて成均館大学を訪問)、小規模な合同会議を行い意見を交換した。

平成25年度からは、ネットを利用した簡易テレビ会議システム(WebEx)に登録し、日常的にテレビ会議を行える体制を確立した。これは、将来的に WEB 講義にも利用される予定である。

研究指導については、現在キャンパス・アジア専任教員が Skype、Facetime により派遣した学生を定期的に指導する体制をとっているが(学生はiPadを利用)、派遣先指導教員と岡山大学指導教員同士の共同研究指導体制はまだ確立されていない。当面は、教員を相互に派遣して協定校で授業を不定期に開講する実績を重ねつつ、将来的には共同指導体制を確立し、共同大学院(後述)の設置を目指している。

b)教職員

共同教育プログラムの実施に向けて、岡山大学では国際センターの枠組みの中でキャンパス・アジア事務局を3名配置しサポート体制に万全を期すとともに、専任教員を3名配置し、日本文化、東アジアの歴史、言語、自然科学・医歯薬分野の講義・教育指導を行っている。また、順次協力講義(既存の講義にキャンパス・アジア講義の冠をかぶせる)も拡大している。吉林大学では、国際交流与合作処の日本担当が特別講義を実施している。成均館大学校では、キャンパス・アジア事務局の専任教員が、キャンパス・アジア共通科目を展開している。このように、それぞれの大学の教員・事務局の体系は少しずつ異なるものの、各々がキャンパス・アジアプログラムの構築・運営について共通の認識をもち、各大学のシステムに合った方法で共通教育プログラムを実施している。

さらに、サマーコースでは、内外の著名な研究者を招聘し、日中韓の学生に英語で講義を提供してもらうほか、日中韓の学生が混合グループを作り、招聘研究者とともにフィールドワークに出ることを計画している。

ナノバイオコースでは、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科に各国から留学生を受け入れ、英語による教育と実習・演習的要素を含めたウェットラボでの研究見学および 体験を行っている。

以上のことから、基準 2－1 における当プログラムの質の段階は「進展している」と自己判定している。

2. 今後の課題点

本プログラムでは、全学体制で学生の派遣、受け入れを行っており、さらに学部、大学院博士前期課程、大学院博士後期課程の学生を受け入れている。加えて、英語のみでの留学も受け入れている。しかしながら、キャンパス・アジアの留学生はいずれも身分は特別聴講学生であり部局の正規学生でないため授業が聴講

〔大学名：岡山大学〕

できても単位履修ができないなどのケースが多く発生している。そこで、全学で提供する科目を増やす、キャンパス・アジア共通科目を増やす、学生・院生を部局に帰属させる、などの対策を検討する必要がある。

大学間のコミュニケーションや交流に関して、実際に相互に行き来をすることによって得られる効果は計り知れないが、今後はインターネット上の相互交流プログラムをより活用していくことを考えなくてはならない。

基準 2－2 教育内容・方法

目的を達成するために適切な教育内容や教育方法が共同して検討され、実施されているか。

1. 基準 2－2に係る現況の説明

本構想においては、日中韓の学生が、相互の文化や社会の中で共通した伝統的価値観や現代の課題を「共通善」として認識することが、その教育の起点となる。

- これを念頭に開講しているキャンパス・アジア共通科目、リージョナル・カンファレンス、セミナー、ワークショップ、サマースクールという多様なプログラムの中で、受入の中・韓学生および日本人学生に対して、①伝統的な日本文化、地域社会の現代的課題を体験的に学ぶ、②共通善について学ぶ、③課題や価値観の中に共通性を見出す、ことなどをテーマとして教育を行っている。
- 教育方法として重視していることは、①座学に偏らない、体験的学習を取り入れること、②日中韓の学生が、グループワーク(グループでのディスカッションやプレゼンテーション)を行うことを通じて、共同作業を行うことである。
- プログラムの一部には、他の留学生と共に行う授業がある。欧米の学生とも交わることで、(東)アジアの共通性を意識する機会にもなる。
- また、「シェアハウス」という新たな取組は、実生活を通じて日中韓の文化理解を促進し、コミュニケーションの方法を学ぶという教育プログラムである。シェアハウスのプログラムは、社会(地域コミュニティ)の一員としての在り方を日中韓の学生が学ぶ機会にもなっている。
- パートナー(ボランティア・チューター)制度を設け、日中韓の学生が学生生活の中で自由に交流学習をする機会を設けている。
- 上記のプログラムには、キャンパス・アジア留学プログラムの帰国学生や将来ポテンシャルのある学生とともに、留学中の中韓学生を混合し、交流が網の目のように行われるように工夫している。
- キャンパス・アジアの学生交換プログラムに、「中韓留学体験ワークショップ(1週間の中国韓国現地でのワークショップ)」「夏期短期留学(3～4週間)」「長期留学(6ヶ月あるいは1年)」というように、学生のレベルに合わせた取組への多様な機会を創出している。

自然科学系サマーセミナー

サマーセミナーの目的は、自然科学系においてキャンパス・アジアプログラムの骨子である「共通善」に対する理解を深め、さらに、自然科学系の研究の取り組みに関する理解を深めることである。実施体制としては、平成24年9月13日、14日の両日で開催された国際シンポジウム「Bioactive Okayama 2012(BAO2012)」に成均館大学から学生10名を招聘し、英語による国際セミナーを岡山大学で開催した。本取り組みにより、岡山大学の農学部、薬学部を中心とした教員と学生と成均館大学の教員と学生の研究交流を深めた。吉林大学からも来日予定であったが、時間的制約のため、日韓二国の研究者が発表した。このプログラムを通じて、「食と健康」に関する情報共有ができ、相互理解を深めることができた。なお、スライド作成や、抄録作成を含め、発表などは全て英語でおこなった。

自然科学系のワークショップ

ワークショップの目的は、自然科学系における「材料科学」に対する理解を深めることである。実施体制とし

〔大学名：岡山大学〕

ては、平成25年2月14日、15日の両日、成均館大学校の主催で開催された国際シンポジウム「BK21 Symposium」と融合するかたちで岡山大学からは10名の大学院生(博士前期課程5名、博士後期課程5名)が参画し、英語による国際ワークショップを韓国で開催した。本取り組みにより、岡山大学の大学院自然科学研究科と大学院環境生命科学研究科を中心とした教員3名と学生が成均館大学の教員、学生と研究交流を深め、学生が国際舞台での貴重な経験を積むと同時に、今後の協力体制にむけて教員同士の相互信頼のベースを固めることができた。同時に、このプログラムを通じて、「材料科学」に関する情報共有ができた。

ナノバイオコース国際シンポジウム

本プログラムの目的は医歯薬系における日中韓で共通の課題である先端医療についてテーマを設定し、研究者が一堂に会して最新の情報を互いに共有して理解を深めることを目的としている。実施体制としては、平成24年12月に第一回ウインターシンポジウムと題して、成均館大学から講師を招聘し英語による国際セミナーを岡山大学で開催した。吉林大学からも来日予定であったが、日中間の情勢悪化を理由に直前になりキャンセルとなったため、日韓二国の研究者が発表した。当日は吉林大学からの聴衆も交えて、活発な討議が行われた。このプログラムを通じて、先端医療に関する情報共有ができた。

ナノバイオコースのシンポジウムは、平成24年度は研究者が中心になるものであった。しかしながら、まず研究者・教育者同士が協定校の研究・教育に理解と信頼を深めなくては単位互換や共同教育のプログラムまで話がつながっていかない。この国際シンポジウムは、結果的に平成25年度からナノバイオコースを開講する大きな弾みとなった。このように、この取り組みを通じて、共通教育を進めるには、教育者同士の交流がきわめて重要であるという教訓を得た。

以上のことから、基準2-2における当プログラムの質の段階は「進展している」と自己判定している。

2. 今後の課題点

次のステップとして、日中韓の共通の教科書によるキャンパス・アジア共通科目教育の実現する必要がある。

中国あるいは韓国どちらかの交流プログラムに参加した学生が、参加後更にもう一方の国との交流プログラムに参加するための仕組みを考える必要がある。つまり、「3 国間」相互交流になるための、交流プログラムを深化させる必要がある。

基準 2－3 学習・生活支援

学生が適切に学べる環境を形成し、学習・生活面の支援を行っているか。

1. 基準 2－3に係る現況の説明

a) 学習支援

受入学生に対しては、キャンパス・アジアが独自に、または既存の開講科目に冠をかぶせて開講している科目に関し、「岡山大学キャンパス・アジア共通科目要覧」(別添)の末尾にある「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラムの共通科目について」の規定に基づき、明確なシラバスを作成して授業開講、履修指導を行っている。また、チャーターの配置、オリエンテーションの実施、諸手続の支援等の各種の学習支援を実施している。

派遣前の学生に対しては、事前の語学研修やチューターの活用による追加指導を実施している。本プログラムにおいては、自大学から派遣する学生に対して事前の語学補習(英語・中国語・韓国語)を平成 24 年 12 月から平成 25 年 2 月まで定期的実施した。また、チューターを活用し 1 対1での自主学習の強化を図っている。

派遣後のフォローアップでは、キャリア支援、語学のブラッシュアップ講座の開講(上級、ただし単位認定はない)を実施している。

日中韓共同学習では、「学生フォーラム」として、日中韓の長期留学プログラム参加学生による「日中韓の相互理解」をテーマとする学生カンファレンス(個別発表、ディスカッション、グループ発表)を、学習の総括という位置づけで行っている。本テーマに関する個々の問題意識の向上が明確に読み取れる成果を、『カンファレンス文集』にまとめている。

学期中に行ったセミナー、カンファレンスについて、学生の学習成果はレポートを通じて確認し、「文集」として共有化している。

日中韓学生のワークショップを開催したが、このことがワークショップの参加者による自発的な「CAクラブ」の形成を促した。「CAクラブ」が、日中韓の交流活動、自主的な相互学習の場となりつつある。

自然科学系のワークショップにおいては、スライド作成や、抄録作成指導を含め、発表などは全て英語でおこなった。

b) 生活支援

キャンパス・アジアプログラム学生に対し、奨学金等の財政的支援や宿舍等の情報を事前に提供するとともに、ほとんどの参加学生にこれらの生活支援を提供している。

当該目的の策定にあたっては、吉林大学及び成均館大学校との間で相互に授業料免除、奨学金支給、が行われている。なお、成均館大学校においては支給奨学金の中から宿舍費を支払っている。

受け入れ学生に対しては、到着時のオリエンテーション、専任教員により定期的な個人指導(カウンセリング)を実施している。

本校から派遣する学生に対しては、事前に派遣先での生活支援の状況を適切に伝達するとともに、Skype または Facetime によるカウンセリング、災害時等のリスク管理の生活支援をおこなっている。

参加している学生間での交流支援、CA クラブ組織の形成を支援している。

キャンパス・アジア事務局が運営する Facebook により、キャンパス・アジア学生に随時、最新の情報を提供

[大学名：岡山大学]

し、また相互に情報を交換すると同時に、他の学生に対して情報発信を行っている。

以上のことから、基準 2-3 における当プログラムの質の段階は「進展している」と自己判定している。

2. 今後の課題点

真の「成果」とは何かについて、また、その計り方についても、初年度が終わった段階で、改めて問わなくてはならない。その意味では、留学体験学生が「多くを学び」「満足した」ということ以上に、どのような進路を得て、その進路の中でキャンパス・アジア留学での学びがどう将来の人材育成につながっていくのかを長期的展望にたってとらえ直し、学習支援のあり方を改善する必要がある。

いわゆる「アームチェア留学」(至れり尽くせりの留学)では、自ら困難を切り開くバイタリティを持った学生は育たないが(学生が何かあるとすぐに事務局に頼ってくる)、一方で手をかけただけ学生が育つという側面もあるので、これまでの成果と問題点をそうした視点から整理する必要がある。

基準 2－4 単位互換・成績評価

単位の取得や海外大学等との互換方法、成績評価の方法および海外大学等との互換方法が定められ、機能しているか。

1. 基準 2－4に係る現況の説明

a)単位認定・互換

協定校で取得した単位について、その教育内容を踏まえて単位互換を行うシステムは基本的には構築されている。それは、取得した単位について単位取得証明書、シラバス、講義時間を示す書類等を提出すれば、学生の所属部局でひとつひとつ審査し、認定可/不可を判定するというものである。しかしながら、基準は部局ごとに様々で、比較的緩やかに専門科目として単に認定してくれる学部もあれば、基本的にすべて一般科目としてしか認めない学部もある。これを統一するのは、事実上不可能である。

現在、協定校とキャンパス・アジア学生の履修に関するラーニングアグリメントが締結できないか模索中である。

これとは別に、キャンパス・アジア共通科目を開講し、受入学生に対して単に認定を行っている(別添資料参照)。これは、キャンパス・アジアが独自に開講する科目、および既存科目でキャンパス・アジアの冠をかぶせた科目(部局が開講する科目であってもキャンパス・アジアとして単位認定が可能)である。

b)成績評価・学位授与

参加大学において成績評価方法についての議論を継続的に行うとともに、各参加大学にて厳格ではあるが広範な単位認定が行われるよう調整中である。

キャンパス・アジアは、学長のサインと捺印がある修了証書を独自に発行している。また、吉林大学、成均館大学校も同様の修了証書を発行している。

教員を相互に派遣して協定校で授業を不定期に開講する実績を重ねつつ、将来的には共同指導体制を確立し、共同大学院(*)での単位認定を目指している。

* ここでいう共同大学院とは、複数の大学院が共通講義、共同論文指導を行うものであるが、当面はそれぞれの大学が独立して学位を与えるダブル・ディグリー制度を目指している。将来的には、複数の大学が共同で学位を授与するジョイント・ディグリー制度を目指しており、この制度の構築には特に成均館大学が意欲的である。

以上のことから、基準 2－4における当プログラムの質の段階は「課題が残っている」と自己判定している。

2. 今後の課題点

全学で単位互換を行っているという特徴がある一方、部局ごとに履修要件、単位認定基準が様々であり、それぞれの部局の特殊性を考慮すると、単位認定制度を統一するのは事実上不可能である。しかしながら、

〔大学名：岡山大学〕

岡山大学に留学してきたキャンパス・アジアの学生は、単位履修が複雑で制限されることに大きな不満を持っている。この点を、2つの方向で改善していきたい：

1. キャンパス・アジアの学生は、基本的に特別聴講学生なので、特別聴講学生向けの授業を全学、またはキャンパス・アジア独自でできるだけ多く提供する。

2. 留学生受け入れを前提とした特定のプログラム(コース)を準備し、そこで集中的に留学生を受け入れる。

また、共同大学院をどのように構築していくか具体的に検討を始めたところであるが、授業の相互乗り入れ、一部のプログラムを協定校で履修、相手大学にユニットごと移すハイブリッド型、編入型など、さまざまな可能性を模索している。基本的には、文部科学省が指針として示している国内大学間のみおける共同大学院設置ガイドラインを参考に国際共同大学院の設置を構想している。

基準3 学習成果

教育プログラムの目的に即して学習成果を測定する方法を設定し、成果が適切にあがっているか。

1. 基準3に係る現況の説明

a) 学習成果の測定と結果

全般的には、キャンパス・アジア学生の単位履修状況を把握することにより、学生の学習状況を分析している。

自然系では、国際セミナーにおいて全て英語により口頭とポスター発表をおこなったが、英語による学会発表を初めておこなった学生がほとんどであり、学生が自分自身の力を検証する良い契機となった。

学習の成果は、一義的には単位習得状況によって測ることができるが、留学の前後に所属校で集中的に単位を取る学生や、単位を所属校でほとんど修得してから論文執筆に集中するため留学する学生がいる一方、派遣先の大学で多くの単位を取得しようという学生もあり、単位習得数のみでは成果は測ることはできない。

一方で、セミナーやワークショップを開催した際は、必ず文集を編纂している。その文集の中で、学生の満足度や成長度を良いとすることは可能である。

大学院生に関しては、論文執筆の進展度が学習成果の一定の基準になる。

また、現地における語学学習の達成度は、検定試験の結果で測ることができる。

b) プログラム履修後の状況

長期・短期留学において、留学終了後の調査を行い、その結果を教育内容や指導方法の改善へ活用している。具体的には、日中韓長期留学生の合同プログラム「学生フォーラム」における日中韓相互理解に関するテーマの討議、発表と文集作りを通じ、留学中の成果と課題を掘り起こして、その後の教育に生かしている。

一方で、帰国学生の学習成果を客観的に評価する制度や枠組みはまだ構想されていない。

以上のことから、基準3における当プログラムの質の段階は「課題が残っている」と自己判定している。

2. 今後の課題点

質保証を確保する上で、学習成果の測定方法と結果の分析は重要な課題であり、早急に検討する必要がある。

基準 4 内部質保証システム

内部質保証や改善のための体系的な取組みが、参加大学との連携のもとで行われ、機能しているか。

1. 基準 4 に係る現況の説明

a)内部質保証システムの体制

学生からの定期的に意見を聴取し、報告書に纏めている。

外部評価委員会の規約を作成し、3名の有識者に委員を依頼するとともに、第1回の会合を開き、外部評価委員にプログラムの実施状況を説明すると同時に、口頭で意見を聞く会合を行った。

当該プログラムの教育内容や学生の学習成果・教育成果の情報を冊子媒体、ホームページで公表・発信することにより、社会で広く理解されるようつとめている。

b)改善実績・将来計画

本構想においては、学生からの意見聴取(懇談、外部評価委員会参画等)を実施し、そこで指摘された問題についてプロジェクトチーム会議で検討し改善を図っている。

平成 25 年 3 月 15 日には国内有識者 2 名、海外有識者 1 名を迎え 4 時間に及ぶ外部評価委員会を開催した。そこで指摘された問題についてプロジェクトチーム会議で検討し改善を図っている。

しかしながら、将来ジョイント・ディグリーを展望した場合、各講義の質まで含めて質保証に耐えるだけの制度的枠組みが形成されていない上、3校間での質保証制度の議論も進んでいない。

以上のことから、基準 4 における当プログラムの質の段階は「課題が残っている」と自己判定している。

2. 今後の課題点

3校間での質保証制度の議論を進め、客観的評価に耐えうる質保証制度を構築する必要がある。

しかしながら、一方で、講義の形式を相互にそろえるのではなく、様々な形態と内容があるので留学の価値が生まれるのだ、多様性と異質性をお互いに認識することが相互理解につながるのだという議論も根強く、当面は単位互換に耐えられる講義時間数の把握、講義における単位認定・評価システムの相互確認から取り組むことが現実的であると考えます。

基礎データ票

[大学名]	岡山大学			
	(中国側大学)	吉林大学	(韓国側大学)	成均館大学校
[構想名]	東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム			

1. 構想全体における交流学生数(実績)

(単位:人)

平成23年度		平成24年度	
受入	派遣	受入	派遣
12	19	33	52

2. 奨学金・宿舍提供の状況

(単位:人)

(1)奨学金を受けている学生数		平成23年度		平成24年度	
		受入	派遣	受入	派遣
		12	9	23	32
内訳	日中韓三国共通の財政支援受給者	0	9	11	20
	大学による奨学金	0	0	0	0
	その他の奨学金	12	0	12	12

(2)宿舍(大学所有の宿舍、大学借り上げによる宿舍等)を提供されている学生数		平成23年度		平成24年度	
		受入	派遣	受入	派遣
		12	4	33	24

①

①③④⑥

3. 個別の交流プログラムの概況

※色の見方 外国人学生の受入れ(中韓⇒日本) 日本人学生の派遣(日本⇒中韓)

受入/ 派遣	相手国	平成23年度		平成24年度			
		第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
受入	中国					① 6	
	韓国		③ 12		② 5 ④ 10		⑤ 12
派遣	中国			② 10	① 4 ③ 10		④ 5
	韓国				③ 12 ⑤ 3		
				⑤ 2		⑤ 1	
						⑤ 1	⑥ 1
							⑥ 4
							⑦ 10 ⑧ 19

外国人学生の受入れ(中韓⇒日本)								日本人学生の派遣(日本⇒中韓)							
No.	交流期間		派遣元	交流内容	取得可能 単位数	学生交流数		No.	交流期間		派遣先	交流内容	取得可能 単位数	学生交流数	
	始期	終期				計画値	実績		始期	終期				計画値	実績
①	24.09	25.03	中国	交換留学長期(博士・修士・学部)	上限無し	5	6	①	24.03	25.02	中国	交換留学長期(学部)	上限無し	5	4
②	24.04	25.03	韓国	交換留学長期(博士・修士・学部)	上限無し	5	5	②	24.03	24.03	中国	ワークショップ(修士)	0	10	10
③	24.02	24.02	韓国	交換留学短期(学部)	3	12	12	③	24.08	24.08	中国 韓国	交換留学短期(学部)	2 4	22	22
④	24.09	24.09	韓国	サマーセミナー(自然系)	0	10	10	④	25.03	26.02	中国	交換留学長期(学部)	上限無し	5	5
⑤	25.02	25.02	韓国	交換留学短期(学部)	3	12	12	⑤	24.03	25.02	韓国	交換留学長期(学部) ※複数パターンあり	上限無し	5	7
								⑥	25.03	26.02	韓国	交換留学長期(学部) ※複数パターンあり	上限無し	5	5
								⑦	25.03	25.03	韓国	ワークショップ(修士)	0	10	10
								⑧	25.03	25.03	中国 & 韓国	中韓ワークショップ(学部)	0	20	19

岡山大学

キャンパス・アジア共通科目要覧



2013 年度

目 次

【一般教育科目】

近現代日中韓三国関係史(政治外交・国際関係)Ⅰ

近現代日中韓三国関係史(政治外交・国際関係)Ⅱ

中国の少数民族政策と社会

日本文化と礼法：茶の道と精神Ⅰ

日本文化と礼法：茶の道と精神Ⅱ

【サマースクール集中講義】

共通善教育：日中韓三国関係と社会Ⅰ

共通善教育：日中韓三国関係と社会Ⅱ

【キャンパス・アジア共通科目】

地域文化演習・前期（EPOK と一部共通）

地域文化演習・後期（EPOK と一部共通）

【言語教育センター全学日本語コース科目】

日本語 1 A

日本語 1 B （後期）

日本語 2

日本語 3

日本語 4

日本語 5

日本語 6

日本語 7（読むa） （前期）

日本語 7（聞くa） （前期）

日本語 7（書くa） （前期）

日本語 7（話すa） （前期）

日本語 7（読むb） （後期）

日本語 7（聞くb） （後期）

日本語 7（書くb） （後期）

日本語 7（話すb） （後期）

初級会話

読み書き 1

読み書き 2

中級文法・語彙 2

中級文法・語彙 1

多読で学ぶ日本語 （前期）

映像で学ぶ日本語 1 （前期）

映像で学ぶ日本語 2 （前期）

日本を知ろう （後期）

新聞・雑誌で学ぶ日本語 （後期）

メディアリテラシー （後期）

プロジェクトワークで学ぶ日本語 （後期）

【資料】

「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」の共通科目について

レコード番号	226		
登録日時	2012/11/7 14:04	登録者	金谷 至子 [変更する]
更新日時	2012/12/20 13:21	更新者	白 榮勲

科目区分(25年度入学)	主税科目 (人間と社会)
科目区分(24年度入学)	主税科目 (人間と社会)
講義番号(25年度入学)	911226
講義番号(24年度入学)	911226
授業科目(25年度入学)	近現代日中韓三国関係史(政治外交・国際関係)Ⅰ
授業科目(24年度入学)	近現代日中韓三国関係史(政治外交・国際関係)Ⅰ
授業科目(英語)(25年度入学)	The modern and contemporary history of Japan, China and Korea—Governmental diplomacy and diplomatic relations
授業科目(英語)(24年度入学)	The modern and contemporary history of Japan, China and Korea—Governmental diplomacy and diplomatic relations
科目カテゴリ	史学
主題キーワード	自己と他者, 歴史, 政治
学期	前期
単位	2単位
曜日	木曜
時限	2時限
対象学生(25年度入学)	Bグループ (文・法・経・工・MP)
対象学生(24年度入学)	Aグループ (教・理・医・歯・薬・環・農)
注釈	平成23年度以前入学者は、授業時間表を確認してください。
必修・選択の別	選択必修
担当教員	白 榮勲
所属	国際センター
電話番号	086-251-8522
Eメールアドレス	bai-rx@cc.okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	(1) 月曜日 2 限 (10:25~11:55) (2) 教室での対応
授業の概要	近現代東アジア日中韓三国の歴史的關係を検討するものである。考察対象期は1894年～1953年であり、主に「領土」と「民族」をめぐって近代日中韓三国の間で展開された政治外交政策について概述する。
学習目標	近現代日中韓三国の歴史關係(史) について学び、国際的な視野をより一層広げることができる。そして幅広い知識の関心をもって東アジア国際關係の中の様々な問題を解決するための、理論的な思考力を身につける。
授業計画	1 回 オリエンテーション (授業内容の概要、授業の進め方、教科書および文献資料の紹介) 2 回 19世紀末期の東アジアの日中韓三国政治關係 3 回 東アジアにおける領有權問題の発生と交渉 その1 4 回 東アジアにおける領有權問題の発生と交渉 その2 5 回 日清戦争と東アジア 6 回 日清戦争後の日本・朝鮮・清国三国關係 7 回 「大韓帝國」の對外政策と「間島」 8 回 清国と韓国の「間島」領有權問題を巡る攻防 9 回 日本の「間島認識」と滿洲・朝鮮の一体化構想 その1 10 回 日本の「間島認識」と滿洲・朝鮮の一体化構想 その2 11 回 日本の對韓国保護政策と間島問題への介入—「間島協約」と「滿洲問題」 12 回 「韓国併合」と朝鮮人の滿洲・間島への進出 13 回 条約上における朝鮮人の法的地位と「国籍問題」その1 14 回 条約上における朝鮮人の法的地位と「国籍問題」その2 15 回 まとめ
受講要件	特になし
教科書	授業時に指示するが、レジュメ、参考文献資料を複写、配布する。
参考書等	授業中随時に指示
成績評価	出席、発表、レポート提出などに基づいて総合的に評価する。(出席35%、発表20%、レポート45%)
研究活動との関連	担当教員は近現代東アジア日中韓三国の国際政治關係の研究を行っている。この講義の内容はその一部である。
JABEEとの関連	基準1の(a)「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」

コメント	日本近代史、中国近代史、朝鮮近代史といった近代日中韓三国の歴史予備知識をもっているのが望ましい。
------	--

レコード番号	255		
登録日時	2012/11/7 14:04	登録者	金谷 至子 [変更する]
更新日時	2012/12/20 13:21	更新者	白 榮勲

科目区分(25年度入学)	主題科目 (人間と社会)
科目区分(24年度入学)	主題科目 (人間と社会)
講義番号(25年度入学)	911255
講義番号(24年度入学)	911255
授業科目(25年度入学)	近現代日中韓三国関係史(政治外交・国際関係) II
授業科目(24年度入学)	近現代日中韓三国関係史(政治外交・国際関係) II
授業科目(英語)(25年度入学)	The modern and contemporary history of Japan, China and Korea—Governmental diplomacy and diplomatic relations
授業科目(英語)(24年度入学)	The modern and contemporary history of Japan, China and Korea—Governmental diplomacy and diplomatic relations
科目カテゴリー	史学
主題キーワード	自己と他者, 歴史, 政治
学期	後期
単位	2単位
曜日	木曜
時限	2時限
対象学生(25年度入学)	Bグループ (文・法・経・工・MP)
対象学生(24年度入学)	Aグループ (教・理・医・歯・薬・環・農)
注釈	平成23年度以前入学者は、授業時間表を確認してください。
必修・選択の別	選択必修
担当教員	白 榮勲
所属	国際センター
電話番号	086-251-8522
Eメールアドレス	bai-rx@cc.okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	(1) 月曜日2限 (10:25～11:55) (2) 教室での対応
授業の概要	近現代東アジア日中韓三国の歴史関係を検討するものである。考察対象期は1894年～1953年であり、主に「領土」と「民族」をめぐって近代日中韓三国の間で展開された政治外交政策について概述する。
学習目標	受講を通じて近現代日中韓三国の歴史関係(史)について学び、国際的な視野をより一層広げることができる。幅広い知的関心をもって東アジア国際関係の中の様々な問題を解決するための、論理的な思考力を身につける。
授業計画	1回 オリエンテーション (授業内容の概要、授業の進め方、教科書および文献資料の紹介) 2回 朝鮮独立運動と「大韓民国臨時政府」その1 3回 朝鮮独立運動と「大韓民国臨時政府」その2 4回 「満州事変」と在満洲朝鮮人問題 5回 満洲における民族関係の激化と日中関係 6回 中国の韓国認識 その1 7回 中国の韓国認識 その2 8回 大韓民国臨時政府の「分化」と朝鮮人社会 9回 ソ連の「満洲」への侵襲作戦と朝鮮半島 10回 終戦直後の在満洲日本人社会 11回 中国内戦期における在中国朝鮮人の政治的意向 その1 12回 中国内戦期における在中国朝鮮人の政治的意向 その2 13回 朝鮮戦争と東アジア国際情勢 その1 13回 朝鮮戦争と東アジア国際情勢 その2 14回 朝鮮戦争と東アジア国際情勢 その3 15回 まとめ
受講要件	特になし
教科書	授業時に指示。レジュメ、参考文献資料を複写配布。
参考書等	授業中随時に指示
成績評価	出席、発表、レポート提出などに基づいて総合的に評価する。(出席35%、発表20%、レポート45%)
研究活動との関連	担当教員は近現代日中韓三国の国際政治関係を研究している。この講義の内容はその研究内容の一部である。
JABEEとの関連	基準1の(a)「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」
コメント	日本近代史、中国近代史、朝鮮近代史といった近代日中韓三国の歴史基礎知識をもっているのが望ましい。

レコード番号	241		
登録日時	2012/11/7 14:04	登録者	金谷 至子 [変更する]
更新日時	2012/12/20 13:21	更新者	白 榮勲

科目区分 (25年度入学)	主題科目 (人間と社会)
科目区分 (24年度入学)	主題科目 (人間と社会)
講義番号 (25年度入学)	911241
講義番号 (24年度入学)	911241
授業科目 (25年度入学)	中国の少数民族政策と社会
授業科目 (24年度入学)	中国の少数民族政策と社会
授業科目 (英語)(25年度入学)	The Policy and Society of Minority people in China
授業科目 (英語)(24年度入学)	The Policy and Society of Minority people in China
科目カテゴリー	社会学、史学
主題キーワード	自己と他者、政治、経済、文化
学期	後期
単位	2単位
曜日	月曜
時限	1時限
対象学生 (25年度入学)	Bグループ (文・法・経・工・MP)
対象学生 (24年度入学)	Aグループ (教・理・医・歯・薬・環・農)
注釈	平成23年度以前入学者は、授業時間表を確認してください。
必修・選択 の別	選択必修
担当教員	白 榮勲
所属	国際センター
電話番号	086-251-8522
Eメールアドレス	bai-rx@cc.okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	(1)月曜日 3限 (12:45~14:15) (2)教室での対応
授業の概要	56個の民族で構成する現代中国は、多民族、多文化社会である。では、この多民族社会はどのように構成されており、経済発展を最大課題とする中国では、民族間の文化交流はどのように行われているか。とりわけ「民族平等」や多民族・多文化社会の「和合」の実現を目指す中国政府は、どのような民族政策を打ち出しており、その中で「少数民族社会」はどのような「変容」をみせているのか。この授業はいわゆる民族問題という一側面から現代中国社会を透視するものである。
学習目標	中国政府の民族政策に関する基礎知識を学び、日本という外側から中国の多民族社会を見つめ、現代中国への理解や認識を深める。
	1回 オリエンテーション (授業内容の概要、授業の進め方、文献資料の紹介など) 2回 少数民族の集住地域と社会的構造 3回 中国共産党の国内民族問題に関する認識の変遷 その1 4回 中国共産党の国内民族問題に関する認識の変遷 その2 5回 少数民族の出自仕分け事業 その1 6回 少数民族の出自仕分け事業 その2 7回 「憲法」と「民族区域自治法」にみる少数民族の「自治権」と「区域自治」

授業計画	8回	少数民族の自治権と区域自治制度の実態	その1
	9回	少数民族の自治権と区域自治制度の実態	その2
	10回	市場経済下の少数民族の移動と民族関係	その1
	11回	市場経済下の少数民族の移動と民族関係	その2
	12回	「西部」経済開発と少数民族の自治権	
	13回	民族区域自治制度と少数民族社会の「変容」	その1
	14回	民族区域自治制度と少数民族社会の「変容」	その2
	15回	まとめ	
受講要件	特になし		
教科書	授業時に指示するが、レジュメや文献資料を作成複写し配布する。		
参考書等	授業時に指示する		
成績評価	出席率、レポート、発表などに基づいて総合的に評価する。(出席35%、レポート40%、発表25%)		
研究活動との関連	中国の少数民族の殆どは周辺の国々に接する国境地方に集住している。この授業の内容は担当教員の研究課題の一つであり、東アジア国際関係という視点から中国国内の民族問題を捉えようとする。授業では研究領域における基礎知識を概略的に教授する		
JABEEとの関連	基準1の(a)と(d)		
コメント	東アジアの民族問題に関心をもっており、物事を客観的に考える姿勢があってほしい。		

レコード番号	239		
登録日時	2012/11/7 14:04	登録者	金谷 至子 [変更する]
更新日時	2012/12/10 13:31	更新者	大林 純子

科目区分(25年度入学)	主題科目 (人間と社会)
科目区分(24年度入学)	主題科目 (人間と社会)
講義番号(25年度入学)	911239
講義番号(24年度入学)	911239
授業科目(25年度入学)	日本文化と礼法：茶の道と精神I
授業科目(24年度入学)	日本文化と礼法：茶の道と精神I
授業科目(英語)(25年度入学)	Exploring Japanese Culture via Way of Tea, Chado II
授業科目(英語)(24年度入学)	Exploring Japanese Culture via Way of Tea, Chado II
科目カテゴリ	人間と社会
主題キーワード	文化, 芸術, 歴史, 宗教
学期	前期
単位	2単位
曜日	木曜
時限	2時限
対象学生(25年度入学)	Bグループ (文・法・経・工・MP)
対象学生(24年度入学)	Aグループ (教・理・医・歯・薬・環・農)
注釈	平成23年度以前入学者は、授業時間表を確認してください。
必修・選択の別	選択必修
担当教員	大林 純子
所属	国際センター
電話番号	251-8935
Eメールアドレス	j.obayashi@cc.okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	火曜14:30-17:30 by appointment
授業の概要	茶道にみる礼法や「形」の奥にある精神(こころ)や意味を知り、茶道の歴史的、思想的背景や芸術性について多角的に考察する。グローバル化の中で、茶道と日本文化の果たす役割について考える。
学習目標	所作や決まりごとに現れる「形」のイメージが先行しがちな茶道の根底にある心のはたらきについて理解し、日本の伝統文化と現代に生きる自分の接点を探り、国際人としての視座を養う。本講義は実技の習得に重きを置くものではないが、体験的学習を通じて、受講後には茶席に招かれたときにどのように心を働かせ、お茶を頂けばよいかを理解できていることを目標とする。
授業計画	詳細は1回目の講義の時に配布する。 第1回 オリエンテーション：「茶」文化とは？ 第2回～第4回 茶道の歴史 第5回～第7回 茶道の思想 第8回～第10回 茶道の美学 (オーディオ鑑賞を含む) 第11回～第14回 茶道の礼法 (デモンストレーション、茶道体験を含む) 第15回 まとめ
受講要件	特になし
教科書	必要に応じてプリントを配布する
参考書等	講義中に紹介する
成績評価	出席（授業の感想提出）50点、レポート40点、授業への参加態度10点
研究活動との関連	専門はカルチュラル・スタディーズ（オセアニア地域研究、先住民の伝統文化と文化政治）。この講義は、茶道修道者である講師が比較文化研究の観点から茶道を捉え、講義するものである。

JABEEとの関連	国際社会の一員としての教養を身につける
コメント	茶室に入ることを想定しており、上限20名程度とします。茶席を体験するのに300～500円の茶席代が必要です。これまで茶道に興味はあるのに近寄りがたいと思っていた学生、留学体験者や留学希望者など国際社会で活動することを志している学生にも受講してほしいと思います。

レコード番号	264		
登録日時	2012/11/7 14:04	登録者	金谷 至子 [変更する]
更新日時	2012/12/10 10:52	更新者	大林 純子

科目区分 (25年度 入学)	主題科目 (人間と社会)
科目区分 (24年度 入学)	主題科目 (人間と社会)
講義番号 (25年度 入学)	911264
講義番号 (24年度 入学)	911264
授業科目 (25年度 入学)	日本文化と礼法：茶の道と精神II
授業科目 (24年度 入学)	日本文化と礼法：茶の道と精神II
授業科目 (英語)(25 年度入 学)	Exploring Japanese Culture via Way of Tea, Chado II
授業科目 (英語)(24 年度入 学)	Exploring Japanese Culture via Way of Tea, Chado II
科目カテ ゴリー	人間と社会
主題キー ワード	文化, 芸術, 歴史, 宗教
学期	後期
単位	2単位
曜日	木曜
時限	2時限
対象学生 (25年度 入学)	Bグループ (文・法・経・工・MP)
対象学生 (24年度 入学)	Aグループ (教・理・医・歯・薬・環・農)
注釈	平成23年度以前入学者は、授業時間表を確認してください。
必修・選 択の別	選択必修
担当教員	大林 純子
所属	国際センター
電話番号	251-8935
Eメール アドレス	j_obayashi@cc.okayama-u.ac.jp
オフィスア ワー	Tue 14:30-15:30 By appointment
授業の概 要	Chado, Way of Tea, is known widely in the international community today as one of the most "authentic" Japanese tradition, which has developed over more than four hundred years. The simple act of sharing a bowl of tea with refined rules and manners in exact procedures can stand out at the first look of a tea setting. This course, therefore, attempts to provide a deeper view of Chado to appreciate the Japanese culture by examining the meanings, historic background, and artistic development of the Way of Tea.
学習目標	Students should explore the internal meanings and beauty of Chado rather than the rules and procedures as its "exotic" external looks. By the end of the course, students should get a sense of not only what-to-do when receiving a bowl of tea, but also "why" he/she is expected to do so based on a deeper understanding of the culture.
授業計画	The detail syllabus should be announced in the first class. The course consists of the lectures and discussions on the history, spiritual significance, art (implements),

	and manners/procedures of Chado. The demonstrations and interactive experiences in Cha-shitsu (Tea room) would be included.
受講要件	Non-native English speakers would need English ability of TOEIC 500+level. Those who took 日本文化と礼法 I cannot take the course. 授業は英語で行うため、TOEIC 500+レベルの英語力が必要です。足りないが受講を希望する学生は相談してください。
教科書	None. Handouts will be given.
参考書等	None.
成績評価	Attendance/petit-report: 40, Report/Presentation: 40, Participation: 20
研究活動 との関連	The lecturer, whose background is cultural studies in Oceania, is a long-time practioner of Urasenke Tea tradition.
JABEE との関連	国際社会の一員としての教養
コメント	This course will include classes in participating in "tea" demonstrations/practices. In order to ensure the quality of the teaching/learning, the number of the enrollment may be limited to 20. It also requires to collect 300-500yen to participate in a tea demonstration.

レコード番号	265		
登録日時	2012/11/7 14:04	登録者	金谷 至子 [変更する]
更新日時	2012/12/20 13:22	更新者	白 榮助

科目区分 (25年度入学)	主題科目 (人間と社会)
科目区分 (24年度入学)	主題科目 (人間と社会)
講義番号 (25年度入学)	911265
講義番号 (24年度入学)	911265
授業科目 (25年度入学)	共通善教育：日中韓三国関係と社会Ⅰ
授業科目 (24年度入学)	共通善教育：日中韓三国関係と社会Ⅰ
授業科目 (英語)(25年度入学)	The Education of Common-Wealth -Three countries relationship and Society of Japan, China and Korea
授業科目 (英語)(24年度入学)	The Education of Common-Wealth -Three countries relationship and Society of Japan, China and Korea
科目カテゴリー	政治学 史学 社会学 経済学 文学
主題キーワード	自己と他者, 政治, 歴史, 経済, 文化
学期	前期集中
単位	2単位
曜日	
時限	
対象学生 (25年度入学)	全
対象学生 (24年度入学)	全
注釈	平成23年度以前入学者は、授業時間表を確認してください。
必修・選択の別	選択必修
担当教員	白 榮助 他
所属	国際センター
電話番号	086-251-8522
Eメールアドレス	bai-rx@cc.okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	基本的に教室で対応する
授業の概要	<p>この科目は2013年8月に開催するサマースクールでの集中講義である。サマースクールは岡山大学国際センター、キャンパス・アジア事務局が主催し、岡山大学をはじめ、中国の吉林大学、韓国の成均館大学校の三大学の学生・院生が参加する。この講義は上記三大学参加生を対象に行う。</p> <p>授業の内容は下記の七つ、[Ⅰ]と[Ⅱ]で構成しており、複数の教員が講義を担当する。即ち、「正義論」、「論語入門」、「日中韓三国関係史：歴史問題と歴史認識」、「史料にみる岡山の歴史と社会」、「共通善とは何かー東洋と西洋における共通善の比較」、「日中韓三国間の経済協力と東アジア」、「日本の文化と茶道」、である。また授業内容の一部として日中韓三国の学生・院生による討論会や現地調査および見学も実施する。</p> <p>当該科目は夏休み中の二週間に集中して行う。第一週目は[Ⅰ]を学び、第二週目は[Ⅱ]の内容を教授する。授業回数はⅠとⅡがそれぞれ15回(1回90分)、計30回であり、4単位になる。履修にあたっては、[Ⅰ]と[Ⅱ]のうち片方だけの受講は認めないので、必ず二週間の日程に参加し、[Ⅰ]と[Ⅱ]の両方を履修しなければならない。</p>
学習目標	<p>キャンパス・アジアは岡山大学、吉林大学・成均館大学校の三大学が、相互に留学生の派遣、共通科目の開講などによって東アジア社会における国際的人材を育成することを目標とする。この集中講義もその一環であるが、日中韓三国の学生や院生との交流を通して、異文化社会に対する相互理解を深めることができる。また多分野の専門的知識を学ぶことで幅広い知識を身につけ、国際的な視野にたって、過去・現在・未来への多面的に物事を考える力を培う。</p>

授業計画	<p>[Ⅰ] (第一週目)</p> <p>以下四つのテーマで構成：「正義論」、「論語入門」、「日中韓三国関係：歴史問題と歴史認識」、「史料にみる岡山の歴史と社会」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「正義論」(担当教員は3名, 授業数4回) <ul style="list-style-type: none"> 1回「正義論」の共通性－「東洋」と「西洋」との比較 その1 2回「正義論」の共通性－「東洋」と「西洋」との比較 その2 3回「正義論」の共通性－「東洋」と「西洋」との比較 その3 4回「正義論」の共通性－「東洋」と「西洋」との比較 その4 ・「論語入門」(担当教員1名, 授業数2回) <ul style="list-style-type: none"> 5回 論語とはなにか－儒教における「四書」 6回 東アジアにおける儒教と「論語」 ・「日中韓三国関係：歴史問題と歴史認識」(担当教員3名, 授業数6回) <ul style="list-style-type: none"> 7回 東アジアの近現代史 その1 8回 東アジアの近現代史 その2 9回 近現代日中韓三国関係史の概述 その1 10回 近現代日中韓三国関係史の概述 その2 11回 東アジアにおける「歴史観」の対比－記憶の再生と史料の共有 その1 12回 東アジアにおける「歴史観」の対比－記憶の再生と史料の共有 その2 ・「史料にみる岡山の歴史と社会」(担当教員1名, 授業数3回) <ul style="list-style-type: none"> 13回 史料の解説 その1 14回 史料の解説 その2 15回 歴史遺跡の探訪または踏査を実施
受講要件	特になし
教科書	サマースクール募集参加時に指示
参考書等	サマースクール募集参加時に指示
成績評価	基本的には出席、発表、レポートなどに基づいて総合的に判断する。判断の基準率は授業への出席40%、発表20%、レポート40%である。レポートの課題は授業時に指示する。
研究活動との関連	担当教員それぞれは所属の学部また研究科での教育活動および専門分野の研究成果に基づいて教授する。
JABEEとの関連	
コメント	中国・吉林大学と韓国・成均館大学校の留学生と交流をしたい、また中国と韓国の大学へ留学したいという希望者にはよい勉強機会になろう。二週間の受講で四単位を取得できるのもメリットの一つである。受講の要件は特に設けていないが、片方だけの履修は認めないので、必ずサマースクールの二週間日程に参加し、授業[Ⅰ]と[Ⅱ]の両方を履修しなければならない。

レコード番号	9130
登録日時	2012/11/27 20:32 登録者 教育開発センター [変更する]
更新日時	2012/12/20 13:22 更新者 白 榮勲

科目区分 (25年度入学)	主題科目 (人間と社会)
科目区分 (24年度入学)	主題科目 (人間と社会)
講義番号 (25年度入学)	911277
講義番号 (24年度入学)	911277
授業科目 (25年度入学)	共通善教育：日中韓三国関係と社会II
授業科目 (24年度入学)	共通善教育：日中韓三国関係と社会II
授業科目 (英語)(25年度入学)	The Education of Common-Wealth -Three countries relationship and Society of Japan, China and Korea
授業科目 (英語)(24年度入学)	The Education of Common-Wealth -Three countries relationship and Society of Japan, China and Korea
科目カテゴリー	政治学 史学 社会学 経済学 文学
主題キーワード	自己と他者, 政治, 歴史, 経済, 文化
学期	前期集中
単位	2単位
曜日	
時限	
対象学生 (25年度入学)	全
対象学生 (24年度入学)	全
注釈	平成23年度以前入学者は、授業時間表を確認してください。
必修・選択の別	選択必修
担当教員	白 榮勲 他
所属	国際センター
電話番号	086-251-8522
Eメールアドレス	bai-rx@cc.okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	基本的には教室で対応する
授業の概要	<p>この科目は2013年8月に開催するサマースクールでの集中講義である。サマースクールは岡山大学国際センター、キャンパス・アジア事務局が主催し、岡山大学をはじめ、中国の吉林大学、韓国の成均館大学の三大学の学生・院生が参加する。この講義は上記三大学参加生を対象に行う。</p> <p>授業の内容は下記の七つ、[I]と[II]で構成しており、複数の教員が講義を担当する。即ち、「正義論」、「論語入門」、「日中韓三国関係史：歴史問題と歴史認識」、「史料にみる岡山の歴史と社会」、「共通善とは何かー東洋と西洋における共通善の比較」、「日本の文化と茶道」、「日中韓三国間の経済協力と東アジア」である。また授業内容の一部として、日中韓三国の学生・院生による討論会や現地調査および見学も実施する。</p> <p>当該科目は夏休み中の二週間に集中して行う。第一週目は[I]を学び、第二週目は[II]の内容を教授する。授業回数はIとIIがそれぞれ15回(1回90分)、計30回であり、4単位になる。履修にあたっては、[I]と[II]のうち片方だけの受講は認めないので、必ず二週間の日程に参加して、[I]と[II]の両方を履修しなければならない。</p>
学習目標	<p>キャンパス・アジアは岡山大学、吉林大学・成均館大学の三大学が、相互に留学生の派遣、共通科目の開講などによって東アジア社会における国際的人材を育成することを目標とする。この集中講義もその一環であるが、日中韓三国の学生や院生との交流を通して、異文化社会に対する相互理解を深めることができる。また多分野の専門的知識を学ぶことで幅広い知識を身につけ、国際的な視野にたって、過去・現在・未来への多面的に物事を考える力を培う。</p>

授業計画	<p>[II] (第二週目)</p> <p>以下のテーマで構成。「共通善とは何かー東洋と西洋における共通善の比較」、「日本の文化と茶道」、「日中韓三国間の経済協力と東アジア」。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「共通善とは何かー東洋と西洋における共通善の比較」(担当教員4名、授業回数8回) <ul style="list-style-type: none"> 1回 「共通善」とは何かー「東洋」と「西洋」の政治哲学及び政治思想の視点から。その1 2回 「共通善」とは何かー「東洋」と「西洋」の政治哲学及び政治思想の視点から。その2 3回 東アジア漢字文化圏における共通性の展開 その1 4回 東アジア漢字文化圏における共通性の展開 その2 5回 東アジアにおける「共通利益」と国際社会 その1 6回 東アジアにおける「共通利益」と国際社会 その2 7回 日中韓三国の文化交流と多文化社会の構築 その1 8回 日中韓三国の文化交流と多文化社会の構築 その2 ・「日本の文化と茶道」(担当教員1名、授業数1回) <ul style="list-style-type: none"> 9回 「茶道」を通して日本の伝統文化を紹介する ・「日中韓三国の経済協力と東アジア」(担当教員3名、授業数6回)。 <ul style="list-style-type: none"> 10回 日本経済の現状と東アジア その1 11回 日本経済の現状と東アジア その2 12回 日中・日韓の経済協力と課題 その1 13回 日中・日韓の経済協力と課題 その2 14回 二十一世紀東アジアの経済連携と展望 その1 15回 二十一世紀東アジアの経済連携と展望 その2
受講要件	特になし
教科書	サマースクール募集参加時に指示する
参考書等	サマースクール募集参加時に指示する
成績評価	基本的には出席、発表、レポートなどに基づいて総合的に判断する。判断の基準率は授業への出席40%、発表20%、レポート40%である。レポートの課題は授業時に指示する。
研究活動との関連	担当教員それぞれは所属の学部また研究科での教育活動および専門分野の研究成果に基づいて教授する。
JABEEとの関連	
コメント	中国・吉林大学と韓国・成均館大学校の留学生と交流をしたい、また中国と韓国の大学へ留学したいという希望者にはよい勉強機会になる。二週間の受講で四単位を取得できるのもメリットの一つである。受講の要件は特に設けていないが、片方だけの履修は認めないので、必ずサマースクールの二週間日程に参加して、授業[I]と[II]の両方を履修しなければならない。

担当	大林 純子	担当（英語）	OBAYASHI Junko	内線	8935	e-mail	j_obayashi@cc.okayama-u.ac.jp		
講義番号									
学期	前期・後期	曜日	水曜	時限	3-4限	単位数	1	重複履修の可否	不可
授業科目	地域文化演習	授業科目（英語）	Introduction to Japanese Culture and Local Community						
授業概要	<p>キャンパス・アジアの留学生が地域社会の中の歴史や伝統に触れることを目的とする体験的学習を行う。具体的には、地域の代表的史跡を通じた歴史、瀬戸内に位置する岡山の地理を実感的に広く学ぶエクスカージョン、身近に息づいている伝統文化の体験の2部構成になっている。</p> <p>授業内容の性質上、3限4限（学外研修の際には5限まで）を使うため、授業回数は7回とし、開講日程は適宜調整する。4回の授業をEPOK「日本事情」と共通授業とすることにより、各国留学生との交流も図る。</p>								
スケジュール/トピックス	<p>第1回 オリエンテーション、岡山の歴史・地理概説 第2回 国宝史跡、儒学、地方文化：和気閑谷学校見学 備前焼体験（レポート①） 第3回 瀬戸大橋と琴平参詣（レポート②） 第4回 暮らしの中の伝統1：華道 第5回 地域の伝説と史跡：吉備津神社と桃太郎伝説 第6回 地域伝統産業の今：児島・高田織物工場見学 現代の畳表産業（レポート③） 第7回 暮らしの中の伝統2：書道 ※ ホームステイ（課外自由参加）</p> <p>（_____は、EPOK「日本事情」と共通授業）</p>								
受講要件	キャンパス・アジア留学生（学部生・院生）								
テキスト等	特になし。見学地や学習対象についての参考資料や文献をコピーにて配布する。								
到達目標	学外の地域社会や人々の暮らし、日本的伝統への関心や理解を促進する。								
成績評価	出席・授業への取り組み40% レポート（3回）60%								
研究活動との関連	キャンパス・アジアの学生プログラム指導。								
コメント	<p>院生の参加も可とする。</p> <p>教材費（華道、書道、備前焼作陶、畳表体験料）として、¥2X00を第1回授業（オリエンテーション）時に徴集します。</p>								

日本語コース　－2013 年度前期－
Japanese Language Course　(Spring, 2013)

授業科目	日本語 1A
担当教員	佐藤美穂, 梅川ゆう子
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日: 10:25-11:55, C23 火曜日: 10:25-11:55, C23 水曜日: 10:25-11:55, C23 金曜日: 10:25-11:55, C23
定員	20
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 初めて日本語を学習する人のためのクラス。 日本語の文字(ひらがな、カタカナ)を学習し、基本的な日本語の文法、語彙を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な日本語の語彙、文法がわかるようになる。 日本語で簡単なコミュニケーションができるようになる。
授業計画	第 1 週: ひらがな 第 2 週: 第 1 課 第 3 週: カタカナ 第 4 週: 第 2 課 第 5 週: 第 3 課、小テスト 第 6 週: 第 4 課 第 7 週: 第 4 課、小テスト 第 8 週: 第 5 課、 第 9 週: 第 6 課 第10週: 第 7 課、小テスト 第11週: 第 8 課、 第12週: 第 8 課、小テスト 第13週: 第 9 課 第14週: 第 10 課 第15週: 復習、期末テスト
テキスト等	『初級日本語げんき I [第2版]』 ジャパンタイムズ
成績評価	小テスト 50%、期末テスト 30%、出席・授業参加度 10%、宿題 10%
コメント	毎回の出席を望む。
オフィスアワー	

授業科目	日本語 2
担当教員	坂野英里,高木美子
学期	前期
曜日/時間/教室	火曜日: 8:40-10:10, C11 水曜日: 10:25-11:55, C11 木曜日: 8:40-10:10, C11 金曜日: 8:40-10:10, C11
定員	20
授業の概要	大学で 100 時間程度の日本語クラスを履修した人のためのクラス。クラスでは、語彙、文法、表現を学び、主に口頭能力の上達を図る。
到達目標	基本的な文法、語彙の知識を身につけ、日本語での日常会話が適切に行えるようになる。
授業計画	第 1 週: 復習 第 2 週: 第 11 課 第 3 週: 第 12 課、小テスト 第 4 週: 第 12 課 第 5 週: 第 13 課 第 6 週: 第 14 課、小テスト 第 7 週: 第 15 課 第 8 週: 第 15 課、小テスト 第 9 週: 第 16 課 第 10 週: 第 17 課、小テスト 第 11 週: 第 18 課 第 12 週: 第 18 課 第 13 週: 第 19 課、小テスト 第 14 週: 第 20 課 第 15 週: 第 21 課、期末テスト
テキスト等	『初級日本語げんき I,II[第2版]』ジャパントイムズ
成績評価	小テスト 50%、期末テスト 30%、宿題 10%、出席・授業参加度 10%
コメント	毎回の出席を望む。
オフィスアワー	坂野 水曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 3
担当教員	森岡明美, 堂田左和子
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日: 10:25-11:55, C24 火曜日: 10:25-11:55, C24 木曜日: 10:25-11:55, C24 金曜日: 10:25-11:55, C24
定員	20
授業の概要	日本語1 & 2で習得した文法内容を基礎に、このクラスでは、漢字熟語を中心に語彙を増やし、抽象的なトピックを扱っていく。学生は、日本の社会、制度、文化、習慣について理解し、自分の意見を表現するために必要な語彙、文法、慣用表現などを習得する。
到達目標	日本の社会、制度、文化、習慣などについて、情報を得て、それを批判的に検証していく力をつけることが目標である。内容についての質問を聞いて答える予習課題が出されるので、自分でテキスト本文を読んで理解して回答を書き、授業ではロールプレイ、ディベートなどを通してそれについて話すというふうに四技能を伸ばすことを目指している。
授業計画	第 1週: 教育 第 2週: 教育 第 3週: 社会人 第 4週: 社会人 第 5週: 結婚 第 6週: 結婚 第 7週: 余暇 第 8週: 余暇 第 9週: 家族 第10週: 家族 第11週: 宗教と行事 第12週: 宗教と行事 第13週: 人間関係 第14週: 人間関係 第15週: 自然災害
テキスト等	日本について考えよう (pdf ファイルを配布)
成績評価	試験 (40%), ペーパー (20%), 話す活動 (20%), 授業参加 (10%)
コメント	宿題をしてから出席すること。
オフィスアワー	木曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 4
担当教員	守谷智美,黒江理恵
学期	前期
曜日/時間/教室	火曜日: 8:40-10:10, C24 水曜日: 8:40-10:10, C24 木曜日: 8:40-10:10, C24 金曜日: 8:40-10:10, C24
定員	20
授業の概要	さまざまな文章を読み、中級レベルの語彙・漢字・表現・文型を学ぶとともに、書く・話す・聞くなどの総合的な活動を行う。
到達目標	①さまざまな文章を読むことを通して、語彙・表現力を高める。 ②自分の考えや感情など伝えたいことを自分の言葉で表現し、他者とのインターアクションを通して深める。
授業計画	第 1 週:オリエンテーション、第1課 第 2 週: 第1課 第 3 週: 第2課 第 4 週: 第2課、第3課 第 5 週: 第3課 第 6 週: 第3課、第4課 第 7 週: 第4課 第 8 週: 中間テスト、第5課 第 9 週: 第5課 第10週: 第6課 第11週: 第6課、第7課 第12週: 第7課 第13週: 第8課 第14週: 第8課、最終発表準備 第15週: 最終発表準備、最終発表会 第16週: 期末テスト
テキスト等	『中級を学ぼう 中級前期』スリーエーネットワーク
成績評価	クイズ 20%、課題 20%、中間テスト 20%、期末テスト 20%、最終発表 10%、出席・授業参加 10%
コメント	積極的に授業に参加してもらいたい。 受講前に少なくとも 400 字の漢字を習得していることが望ましい。
オフィスアワー	守谷 : 月曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 5
担当教員	青井由佳,内丸裕佳子
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日: 10:25-11:55, C12 火曜日: 10:25-11:55, C12 水曜日: 10:25-11:55, C12 木曜日: 10:25-11:55, C12
定員	20
授業の概要	・中級レベルの語彙・漢字・表現・文型を学び、読む・書く・話す・聞く練習を行う。
到達目標	・学部あるいは大学院の授業についていくために最低限必要とされる日本語力を身につける。 ・学習した語彙・漢字・表現・文型をもとに、まとまった内容が読めるようになる。 ・あるテーマについて、文が書けるようになる。 ・あるテーマについて、発表できるようになる。
授業計画	第 1 週:オリエンテーション、復習 第 2 週:第2課 第 3 週:第2課 第 4 週:第3課 第 5 週:第3課 第 6 週:第5課 第 7 週:第5課 第 8 週:第6課 第 9 週:第6課 第10週: 中間試験 第11週: 第7課 第12週: 第7課 第13週: 第8課 第14週: 第9課 第15週: 発表、復習 コースに関する内容や予定は、オリエンテーションで説明する。
テキスト等	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』スリーエーネットワーク
成績評価	出席・授業態度 10%、漢字クイズ 10%、文法クイズ 10%、単語クイズ 10%、 作文 20%、発表 10%、中間試験 15%、期末試験 15%
コメント	積極的に授業に参加してもらいたい。 受講前に少なくとも 600 字の漢字を習得していることが望ましい。
オフィスアワー	内丸:火曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 6
担当教員	小林潔子,秋田節子
学期	前期
曜日/時間/教室	火曜日: 8:40-10:10, C12 水曜日: 8:40-10:10, C12 木曜日: 8:40-10:10, C12 金曜日: 8:40-10:10, C12
定員	20
授業の概要	日本語そのものを学ぶのではなく、日本語を使うことを目的とします。まず、テキストに沿っていろいろなテーマについて学び、意見を交換します。そして、興味のあるテーマを選び、インタビュー調査し発表します。
到達目標	学習した日本語を使い、あるトピックについて調べたことをまとめ、自分の意見を加えて発表できる。
授業計画	<p>第1週:オリエンテーションと自己紹介 (グループ作業のためにもお互いをよく知り、興味のあることをシェアする。)</p> <p>第2週:第1課</p> <p>第3週:第1課</p> <p>第4週:第2課</p> <p>第5週:第2課</p> <p>第6週:第3課</p> <p>第7週:第3課</p> <p>第8週:第4課</p> <p>第9週:第4課</p> <p>第10週:第5課</p> <p>第11週:第5課</p> <p>第12週:発表のための準備(アンケート、インタビュー調査の作成、実施)</p> <p>第13週:発表のための準備(調査結果の集計、分析、発表原稿の作成)</p> <p>第14週:発表のための準備(発表資料の作成、発表の練習)</p> <p>第15週:期末試験及び発表</p>
テキスト等	『改訂版 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』(スリーエーネットワーク)
成績評価	出席・授業参加 20% 発表1回 40% 期末試験 15% 小テスト 25%
コメント	これまで習った文法は失敗を気にしないで、積極的に使ってみてください。日本語が正しく使えるかより、日本語で自分の考えを表現したり、興味があることを調べたり、他の学生と協力してグループ作業をしたりできることを評価します。
オフィスアワー	

授業科目	日本語 7(読む a)
担当教員	森岡明美
学期	前期
曜日/時間/教室	火曜日: 14:30-16:00, C24
定員	20
授業の概要	「読む」技能に焦点をあてた、上級レベルの日本語クラスである。詩、短歌、俳句、エッセイ、評論、文学作品など様々なジャンルのものを読んで、それについて考える。
到達目標	私達が日ごろ「読んで」いるのは文字ばかりではなく、絵・写真・建築など社会の様々な「記号」を読んでいる。授業では、文章の中から社会や文化を読み解き、究極的には、他者との関わりの中での「自分自身」を読んでいくことが目標である。
授業計画	<p>第1週:「読む」とはということなのかを考える。</p> <p>詩</p> <p>第2週:ショートショート:村上春樹「A Day in the Life」</p> <p>第3-4週:エッセイ:リービ秀雄「李良枝からの電話」</p> <p>第5週:評論(情報科学):菅谷明子「メディア・リテラシー」</p> <p>第6-7週:文学:山田詠美「Body Cocktail」</p> <p>第8週:中間試験</p> <p>第9週:俳句・短歌</p> <p>第10週:評論(人文):北川達夫、平田オリザ「ニッポンには対話がない」</p> <p>第11-13週:文学:川上弘美「シュレジンガーの猫」「蛇を踏む」</p> <p>第14-15週:文学:夏目漱石「坊っちゃん」</p>
テキスト等	文献, プリントを配布。
成績評価	中間試験(30%), 書評(30%), 期末試験/書評(30%), 授業参加(10%)
コメント	辞書を持参すること。
オフィスアワー	木曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 7(書く a)
担当教員	守谷智美
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日: 14:30-16:00, B22
定員	20
授業の概要	留学生に必要な日本語の「書く」力(アカデミック・ライティング・スキル)を高めることを目標とする。具体的には、「書く」ための基礎的知識を学び、それらを使って実際に日本語で書く活動を行う。また、各自が書いたものについてクラスメートとともに検討するなど他者との協働活動を行う。これらを通して、日本語で書く力を総合的に高めることを目指す。
到達目標	1. 日本語で「書く」ための基礎的な知識を学び、それらを使って論理的文章が書けるようになる。 2. 書いたものを分析できる力を身に付ける。
授業計画	第 1週:オリエンテーション 第 2週:書くための基礎①文体・表現 第 3週:書くための基礎②書くときのルール／パラグラフ 第 4週:パラグラフ・ライティング①空間・位置 第 5週:パラグラフ・ライティング①空間・位置 第 6週:パラグラフ・ライティング②時間・場所 第 7週:パラグラフ・ライティング②時間・場所 第 8週:パラグラフ・ライティング③列挙／比較・対照 第 9週:パラグラフ・ライティング④分類 第10週:パラグラフ・ライティング④分類 第11週:パラグラフ・ライティング⑤原因・結果 第12週:パラグラフ・ライティング⑤原因・結果 第13週:最終課題:学習したことを活用して書く 第14週:最終課題:学習したことを活用して書く 第15週:最終課題発表会／振り返り
テキスト等	必要な資料を配布します。
成績評価	各回の課題:40%、発表・協働活動:20%、最終課題:30%、出席および授業への参加貢献:10%
コメント	
オフィスアワー	月曜 5 限(16:15-17:45)

授業科目	日本語 7(話す a)
担当教員	内丸裕佳子
学期	前期
曜日/時間/教室	木曜日: 16:15-17:45, B22
定員	20
授業の概要	「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをディスカッションやロールプレイを通して学ぶ。
到達目標	正しい発音で話せるようになる。 日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。 日本語で分かりやすく発表できるようになる。
授業計画	第 1週:オリエンテーション 第 2週:ドラマで学ぶ日本語 第 3週:ドラマで学ぶ日本語 第 4週:ドラマで学ぶ日本語 第 5週:ドラマで学ぶ日本語 第 6週:ドラマで学ぶ日本語 第 7週:ドラマで学ぶ日本語 第 8週: 中間試験 第 9週:ディベート 第10週:ディベート 第11週:ディベート 第12週:ディベート 第13週:研究発表 第14週:研究発表 第15週:研究発表
テキスト等	ハンドアウト
成績評価	出席・タスク 30%, 中間試験 30%, 発表 40%
コメント	積極的な授業参加を期待する。
オフィスアワー	火曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 7(聞く a)
担当教員	坂野英里
学期	前期
曜日/時間/教室	水曜日: 12:45-14:15, B22
定員	20
授業の概要	日本語能力試験1級程度の日本語能力を持つ学生のためのクラスである。「聞く」技能に焦点を当て、ニュースや映画の聞き取りを行うと共に、ニュースや映画の時事表現や会話表現を習得する。
到達目標	日常生活で触れる日本語を正確に聞き取れるようにする。 日本社会や文化への理解を深める。
授業計画	第 1週:コースの説明、ニュース 第 2週:ニュース、映画場面1 第 3週:ニュース、映画場面1 第 4週:ニュース、映画場面2 第 5週:ニュース、映画場面2 第 6週:ニュース、映画場面3 第 7週:ニュース、映画場面3 第 8週: 中間試験 第 9週: ニュース、映画場面4 第10週: ニュース、映画場面4 第11週: ニュース、映画場面5 第12週: ニュース、映画場面5 第13週: ニュース、映画場面6 第14週: ニュース、映画場面6 第15週: ニュース、映画場面6 第16週: 期末試験
テキスト等	プリント教材
成績評価	中間試験:30% 期末試験:40% 宿題・発表:30%
コメント	毎回の出席を望む。宿題は毎回出す。
オフィスアワー	水曜日 16:15-17:45

授業科目	初級会話
担当教員	青井由佳
学期	前期
曜日/時間/教室	火曜日: 8:40-10:10, C23
定員	20
授業の概要	初めて学ぶ学生にとって岡山での生活に必要な日本語での会話を学ぶ。
到達目標	岡山での生活に必要な知識を得る。 初級の文法を使って、身近な場面でコミュニケーションできる。 最低限必要な情報を得るために、質問したり、相手の日本語を聞き取ったりすることができる。
授業計画	第1週:オリエンテーション、1課 自己紹介とあいさつ表現 第2週:1課 あいさつ表現、5課 買い物 第3週:3課 ファーストフード 第4週:4課 レストラン 第5週:2課 タクシーに乗る 第6週:5課 買い物 第7週:6課 時間をたずねる 第8週:7 課 交通 第9週:7 課 交通 第10週:8課 いつ、どこで、なにを？ 第11週:8課 いつ、どこで、なにを？ 第12週:9課 人付き合い 第13週:9課 人付き合い 第14週:10 課 休みの日／期末試験 第15週:10 課 休みの日／期末試験フィードバック
テキスト等	『For newcomers 日本語入門 NOHONGO Break through from survival to communication in Japanese』 (アスク出版)¥1900 * 日本語1(AorB)クラスを履修していない学生は参考書として下記のを勧める。 『NOHONGO FUN&EASY Survival Japanese Conversation for Beginners』(アスク出版) ¥1995
成績評価	出席・授業参加 20% タスク×10 30% 期末試験 20% 小テスト×10 30%
コメント	岡山で楽しい経験をたくさんしましょう。おいしいラーメン屋やきれいなところ、お得なスーパーはどこですか？クラスでシェアしましょう。
オフィスアワー	

授業科目	読み書き 1
担当教員	梅川ゆう子
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日： 8:40-10:10 , C23 水曜日： 8:40-10:10 , C23
定員	20
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて日本語を学習する人のためのクラス。 ・ 日本語の文字(ひらがな、カタカナ、漢字)を学習し、基本的な日本語の文章の読み書きを学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な日本語の文章の読み書きができるようになる。 ・ 基本的な日本語の文字の習得ができる。
授業計画	第 1週:第 1 課 ひらがな 第 2週:第 2 課 カタカナ 第 3週:漢字のオリエンテーション 第 4週:第 3 課 第 5週:第 4 課、小テスト 第 6週:第 5 課 第 7週:復習 第 8週:プレゼンテーション、中間テスト 第 9週:第 6 課 第10週:第 7 課 第11週:第 8 課 第12週:第 9 課 第13週:第 10 課 第14週:漢字の復習 第15週:読解・作文の復習
テキスト等	『初級日本語げんき I [第2版]』 ジャパンタイムズ
成績評価	小テスト 30%、中間テスト 30%、期末テスト 30%、出席・授業参加度 10%
コメント	毎回の出席を望む。 レベル1の受講者は日本語1も併せて受講することを望む。
オフィスアワー	

授業科目	読み書き 2
担当教員	大平真紀子
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日： 14:30-16:00 , C11
定員	20
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で 100 時間程度の日本語クラスを履修した人のためのクラス。 ・基本的な漢字を学習し、短い文章を読んだり書いたりする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な漢字が読んだり書いたりできるようになる。 ・短い文章を読んだり書いたりできるようになる。
授業計画	第 1 週:オリエンテーション・復習 第 2 週: 第 11 課 第 3 週: 第 12 課 第 4 週: 第 12 課・復習 第 5 週: 第 13 課 第 6 週: 第 14 課 第 7 週: 第 15 課 第 8 週: 復習 第 9 週: 第 16 課 第 10 週: 第 17 課 第 11 週: 第 18 課 第 12 週: 第 19 課 第 13 週: 第 20 課 第 14 週: 第 21 課 第 15 週: 総復習
テキスト等	『初級日本語げんき I , II [第 2 版]』ジャパンタイムズ
成績評価	テスト 80%、出席・授業参加度 10%、宿題・発表 10%
コメント	毎回の出席を望む。 レベル2の受講者は、「日本語 2」も併せて受講することを望む。
オフィスアワー	

授業科目	多読で学ぶ日本語
担当教員	黒江理恵
学期	前期
曜日/時間/教室	火曜日: 12:45-14:15, C24
定員	20
授業の概要	自分が読みたいと思う本を選び、授業中および授業外で自分のペースでできるだけ多くの本を読む。また、より深い理解を得るために、自分が読んだ本について感想を発表したり、まとめたりする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈の中で日本語の語彙力を伸ばす ・やさしい日本語をたくさん読むことにより、日本語を読むことへの抵抗感をなくす ・読書の楽しみを体験して、学期終了後も継続できるような読書力・習慣を身につける
授業計画	第 1週:オリエンテーション 第 2週:多読① 第 3週:多読② 第 4週:多読③ 第 5週:グループ発表、多読④ 第 6週:多読⑤ 第 7週:多読⑥ 第 8週:多読⑦ 第 9週:多読⑧ 第10週:グループ発表、多読⑨ 第11週:多読⑩ 第12週:多読⑪ 第13週:多読⑫ 第14週:多読⑬ 第15週:グループ発表
テキスト等	なし
成績評価	出席・授業態度 20%、発表 30%、読書記録 50%
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・このクラスは「日本語3」以上の学生を対象としている。 ・このクラスでは、1語1語、1文1文の意味よりも話全体の内容をつかもうとすること、できるだけ辞書は引かずに文脈や漢字から意味を推測することを意識しながら、読んでほしい。
オフィスアワー	なし

授業科目	映像で学ぶ日本語 1
担当教員	佐藤美穂
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日: 12:45-14:15, B22
定員	20
授業の概要	日本の映画・アニメなどを通して、特定の文化に根ざした会話表現を学び、そこから日本独自の文化に対して理解を深める。映像は指定する。
到達目標	<p>・映像から、日本に特有な文化を知る。</p> <p>・映像から特定の表現を学び、その表現が使用される適切な文脈を理解して、使えるようになる。</p>
授業計画	<p>第 1 週: オリエンテーション</p> <p>第 2 週: 映像視聴</p> <p>第 3 週: 映像視聴</p> <p>第 4 週: グループワーク①</p> <p>第 5 週: グループワーク②</p> <p>第 6 週: グループワーク③</p> <p>第 7 週: グループワーク④</p> <p>第 8 週: 発表①</p> <p>第 9 週: 映像視聴</p> <p>第10週: 映像視聴</p> <p>第11週: グループワーク①</p> <p>第12週: グループワーク②</p> <p>第13週: グループワーク③</p> <p>第14週: グループワーク④</p> <p>第15週: 発表②</p>
テキスト等	プリント配布
成績評価	発表 40%、期末テスト 30%、出席・授業参加 10%、課題提出 20%
コメント	辞書を持参すること。毎回の出席を望む。
オフィスアワー	

授業科目	中級文法・語彙 2
担当教員	青井由佳
学期	前期
曜日/時間/教室	月曜日： 8:40-10:10 , C24
定員	20
授業の概要	日本語能力試験 N2 レベルの文法・語彙を学ぶクラス 練習問題を通して文法や語彙を増やし、整理する
到達目標	中級文法・文型を増やして、日常的な日本語が理解できるようになる
授業計画	第 1 週:オリエンテーション 第 2 週:練習問題1 第 3 週:練習問題2 第 4 週:練習問題3 第 5 週:練習問題4 第 6 週:練習問題5 第 7 週:練習問題6 第 8 週:中間テスト 第 9 週:練習問題7 第10 週:練習問題8 第11 週:練習問題9 第12 週:練習問題 10 第13 週:練習問題 11 第14 週:練習問題 12 第15 週:期末テスト、フィードバックとまとめ
テキスト等	プリント配布
成績評価	期末テスト 40%、中間テスト 30%、出席 15%、宿題 15%
コメント	毎回宿題を出す
オフィスアワー	

全学日本語コース -2013 年度後期-
Japanese Language Course (Fall, 2013)

授業科目	日本語 1A
担当教員	守谷智美, 坂野英里
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日: 10:25-11:55, C11 火曜日: 10:25-11:55, C11 水曜日: 10:25-11:55, C11 木曜日: 10:25-11:55, C11
定員	20
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 初めて日本語を学習する人のためのクラス。 日本語の文字(ひらがな、カタカナ)を学習し、基本的な日本語の文法、語彙を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な日本語の語彙、文法がわかるようになる。 日本語で簡単なコミュニケーションができるようになる。
授業計画	第 1 週: ひらがな 第 2 週: 第 1 課 第 3 週: カタカナ 第 4 週: 第 2 課 第 5 週: 第 3 課、小テスト 第 6 週: 第 4 課 第 7 週: 第 4 課、小テスト 第 8 週: 第 5 課、 第 9 週: 第 6 課 第10週: 第 7 課、小テスト 第11週: 第 8 課、 第12週: 第 8 課、小テスト 第13週: 第 9 課 第14週: 第 10 課 第15週: 復習、期末テスト
テキスト等	『初級日本語げんき I [第2版]』 ジャパンタイムズ
成績評価	小テスト 50%、期末テスト 30%、出席・授業参加度 10%、宿題 10%
コメント	毎回の出席を望む。
オフィスアワー	守谷: 月曜日 16:15-17:45、坂野: 水曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 1B
担当教員	梅川ゆう子,佐藤美穂
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日: 10:25-11:55, C23 火曜日: 10:25-11:55, C23 水曜日: 10:25-11:55, C23 金曜日: 10:25-11:55, C23
定員	20
授業の概要	・日本語を 50 時間程度学習した人のためのクラス。基本的な日本語の文法、語彙を学ぶ。
到達目標	・ 基本的な日本語の語彙、文法がわかるようになる。 ・ 日本語で簡単なコミュニケーションができるようになる。
授業計画	第 1 週: 復習 第 2 週: 第 6 課 第 3 週: 第 7 課、小テスト 第 4 週: 第 8 課 第 5 週: 第 8 課 第 6 週: 第 9 課 小テスト 第 7 週: 第 10 課 第 8 週: 第 11 課 小テスト 第 9 週: 第 12 課 第10週: 第 12 課 第11週: 第 13 課、小テスト 第12週: 第 14 課 第13週: 第 15 課 第14週: 第 15 課、小テスト 第15週: 第 16 課
テキスト等	『初級日本語げんき I,II[第2版]』ジャパントイムズ
成績評価	小テスト 50%、期末テスト 30%、宿題 10%、出席・授業参加度 10%
コメント	毎回の出席を望む。
オフィスアワー	

授業科目	日本語 2
担当教員	坂野英里,高木美子
学期	後期
曜日/時間/教室	火曜日: 8:40-10:10, C11 水曜日: 10:25-11:55, C24 木曜日: 8:40-10:10, C11 金曜日: 8:40-10:10, C11
定員	20
授業の概要	大学で 100 時間程度の日本語クラスを履修した人のためのクラス。クラスでは、語彙、文法、表現を学び、主に口頭能力の上達を図る。
到達目標	基本的な文法、語彙の知識を身につけ、日本語での日常会話が適切に行えるようになる。
授業計画	第 1 週: 復習 第 2 週: 第 11 課 第 3 週: 第 12 課、小テスト 第 4 週: 第 12 課 第 5 週: 第 13 課 第 6 週: 第 14 課、小テスト 第 7 週: 第 15 課 第 8 週: 第 15 課、小テスト 第 9 週: 第 16 課 第 10 週: 第 17 課、小テスト 第 11 週: 第 18 課 第 12 週: 第 18 課 第 13 週: 第 19 課、小テスト 第 14 週: 第 20 課 第 15 週: 第 21 課、期末テスト
テキスト等	『初級日本語げんき I,II[第2版]』ジャパントイムズ
成績評価	小テスト 50%、期末テスト 30%、宿題 10%、出席・授業参加度 10%
コメント	毎回の出席を望む。
オフィスアワー	坂野 水曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 3
担当教員	森岡明美, 堂田左和子
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日: 10:25-11:55, C24 火曜日: 10:25-11:55, C24 木曜日: 10:25-11:55, C24 金曜日: 10:25-11:55, C24
定員	20
授業の概要	日本語1 & 2で習得した文法内容を基礎に、このクラスでは、漢字熟語を中心に語彙を増やし、抽象的なトピックを扱っていく。学生は、日本の社会、制度、文化、習慣について理解し、自分の意見を表現するために必要な語彙、文法、慣用表現などを習得する。
到達目標	日本の社会、制度、文化、習慣などについて、情報を得て、それを批判的に検証していく力をつけることが目標である。内容についての質問を聞いて答える予習課題が出されるので、自分でテキスト本文を読んで理解して回答を書き、授業ではロールプレイ、ディベートなどを通してそれについて話すというふうに四技能を伸ばすことを目指している。
授業計画	第 1 週: 教育 第 2 週: 教育 第 3 週: 社会人 第 4 週: 社会人 第 5 週: 結婚 第 6 週: 結婚 第 7 週: 余暇 第 8 週: 余暇 第 9 週: 家族 第10週: 家族 第11週: 宗教と行事 第12週: 宗教と行事 第13週: 人間関係 第14週: 人間関係 第15週: 自然災害
テキスト等	日本について考えよう (pdf ファイルを配布)
成績評価	試験 (40%), ペーパー (20%), 話す活動 (20%), 授業参加 (10%)
コメント	宿題をしてから出席すること。
オフィスアワー	木曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 4
担当教員	守谷智美,黒江理恵
学期	後期
曜日/時間/教室	火曜日: 8:40-10:10, C24 水曜日: 8:40-10:10, C24 木曜日: 8:40-10:10, C24 金曜日: 8:40-10:10, C24
定員	20
授業の概要	さまざまな文章を読み、中級レベルの語彙・漢字・表現・文型を学ぶとともに、書く・話す・聞くなどの総合的な活動を行う。
到達目標	①さまざまな文章を読むことを通して、語彙・表現力を高める。 ②自分の考えや感情など伝えたいことを自分の言葉で表現し、他者とのインターアクションを通して深める。
授業計画	第 1 週:オリエンテーション、第1課 第 2 週:第1課 第 3 週:第2課 第 4 週:第2課、第3課 第 5 週:第3課 第 6 週:第3課、第4課 第 7 週:第4課 第 8 週:中間テスト、第5課 第 9 週:第5課 第10週:第6課 第11週:第6課、第7課 第12週:第7課 第13週:第8課 第14週:第8課、最終発表準備 第15週:最終発表準備、最終発表会、期末テスト
テキスト等	『中級を学ぼう 中級前期』スリーエーネットワーク
成績評価	クイズ 20%、課題 20%、中間テスト 20%、期末テスト 20%、最終発表 10%、出席・授業参加 10%
コメント	積極的に授業に参加してもらいたい。 受講前に少なくとも 400 字の漢字を習得していることが望ましい。
オフィスアワー	守谷 : 月曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 5
担当教員	青井由佳,内丸裕佳子
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日: 10:25-11:55, C12 火曜日: 10:25-11:55, C12 水曜日: 10:25-11:55, C12 木曜日: 10:25-11:55, C12
定員	20
授業の概要	・中級レベルの語彙・漢字・表現・文型を学び、読む・書く・話す・聞く練習を行う。
到達目標	・学部あるいは大学院の授業についていくために最低限必要とされる日本語力を身につける。 ・学習した語彙・漢字・表現・文型をもとに、まとまった内容が読めるようになる。 ・あるテーマについて、文が書けるようになる。 ・あるテーマについて、発表できるようになる。
授業計画	第 1 週:オリエンテーション、復習 第 2 週:第2課 第 3 週:第2課 第 4 週:第3課 第 5 週:第3課 第 6 週:第5課 第 7 週:第5課 第 8 週:第6課 第 9 週:第6課 第10週: 中間試験 第11週:第7課 第12週:第7課 第13週:第8課 第14週:第9課 第15週:発表、復習 コースに関する内容や予定は、オリエンテーションで説明する。
テキスト等	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』スリーエーネットワーク
成績評価	出席・授業態度 10%、漢字クイズ 10%、文法クイズ 10%、単語クイズ 10%、 作文 20%、発表 10%、中間試験 15%、期末試験 15%
コメント	積極的に授業に参加してもらいたい。 受講前に少なくとも 600 字の漢字を習得していることが望ましい。
オフィスアワー	内丸:火曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 6
担当教員	小林潔子,秋田節子
学期	後期
曜日/時間/教室	火曜日: 8:40-10:10, C12 水曜日: 8:40-10:10, C12 木曜日: 8:40-10:10, C12 金曜日: 8:40-10:10, C12
定員	20
授業の概要	日本語そのものを学ぶのではなく、日本語を使うことを目的とします。まず、テキストに沿っていろいろなテーマについて学び、意見を交換します。そして、興味のあるテーマを選び、インタビュー調査し発表します。
到達目標	学習した日本語を使い、あるトピックについて調べたことをまとめ、自分の意見を加えて発表できる。
授業計画	第1週:オリエンテーションと自己紹介 (グループ作業のためにもお互いをよく知り、興味のあることをシェアする。) 第2週:第1課 第3週:第1課 第4週:第2課 第5週:第2課 第6週:第3課 第7週:第3課 第8週:第4課 第9週:第4課 第10週:第5課 第11週:第5課 第12週:発表のための準備(アンケート、インタビュー調査の作成、実施) 第13週:発表のための準備(調査結果の集計、分析、発表原稿の作成) 第14週:発表のための準備(発表資料の作成、発表の練習) 第15週:期末試験及び発表
テキスト等	『改訂版 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』(スリーエーネットワ
成績評価	出席・授業参加 20% 発表1回 40% 期末試験 15% 小テスト 25%
コメント	これまで習った文法は失敗を気にしないで、積極的に使ってみてください。日本語が正しく使えるかより、日本語で自分の考えを表現したり、興味があることを調べたり、他の学生と協力してグループ作業をしたりできることを評価します。
オフィスアワー	

授業科目	日本語 7(読む b)
担当教員	森岡明美
学期	後期
曜日/時間/教室	火曜日: 14:30-16:00, C24
定員	20
授業の概要	「読む」技能に焦点をあてた、上級レベルの日本語クラスである。詩、短歌、俳句、エッセイ、評論、文学作品など様々なジャンルのものを読んで、それについて考える。
到達目標	私達が日ごろ「読んで」いるのは文字ばかりではなく、絵・写真・建築など社会の様々な「記号」を読んでいる。授業では、文章の中から社会や文化を読み解き、究極的には、他者との関わりの中での「自分自身」を読んでいくことが目標である。
授業計画	<p>第1週:「読む」とはということなのかを考える。</p> <p>詩</p> <p>第2週:ショートショート:星新一「肩の上の秘書」</p> <p>第3週:エッセイ:星野道夫「旅をする木」</p> <p>第4-5週:評論(科学):本川達雄「ゾウの時間ネズミの時間」</p> <p>第6-8週:文学:よしもとばなな「とかげ」</p> <p>第9週:中間試験</p> <p>第10週:俳句・短歌</p> <p>第11-13週:文学:村上春樹「螢」「ノルウェイの森」</p> <p>第14-15週:文学:夏目漱石「こころ」</p> <p>第16週:期末試験</p>
テキスト等	文献、プリントを配布。
成績評価	中間試験と期末試験(60%), 書評(30%),授業参加(10%)
コメント	辞書を持参すること。
オフィスアワー	木曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 7(書くb)
担当教員	守谷智美
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日: 14:30-16:00, B22
定員	20
授業の概要	レポート作成の基礎を身に着けることを目標とする。具体的には、レポート作成の基礎(手順やルール)を知り、実際に集めた情報を使ってレポートを作成する。また、各自の作成したレポートについてクラスメートと検討するなど、他者との協働活動を通してよりよいものを作り上げ、日本語でのレポート作成の技術や書くことへの自信を高めることを目指す。
到達目標	1. レポートの種類・形式や、作成のプロセス・留意点などを知り、自身が出会う「書く」課題に対処できるようになる。 2. 書いたものを分析できる力を身につける。
授業計画	第 1週:オリエンテーション 第 2週:レポート作成の基礎①レポートのルール 第 3週:レポート作成の基礎②要約する 第 4週:レポート作成の基礎③引用する 第 5週:意見・理由の述べ方① 第 6週:意見・理由の述べ方② 第 7週:意見・理由の述べ方③ 第 8週:レポートの作り方①レポートとは／レポートの構成 第 9週:レポートの作り方②資料を集める・使う 第10週:レポートの作り方③図やグラフを使う 第11週:最終課題:レポート作成①テーマを決める・構成を考える 第12週:最終課題:レポート作成②各構成要素の内容を考える 第13週:最終課題:レポート作成③序論・本論・結論・参考文献を書く 第14週:最終課題:レポート作成④クラスメートと読み合い、推敲する 第15週:最終課題発表会／振り返り
テキスト等	必要な資料を配布します。
成績評価	各回の課題 30%、発表・協働活動 20%、最終課題 40%、出席および授業への参加貢献 10%
コメント	
オフィスアワー	月曜 5 限(16:15-17:45)

授業科目	日本語 7(話す b)
担当教員	内丸裕佳子
学期	後期
曜日/時間/教室	木曜日: 16:15-17:45, C23
定員	20
授業の概要	「話す」技能に焦点を当てた授業である。このクラスでは日本語のバリエーションを学習する。分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをディスカッションやロールプレイを通して学ぶ。
到達目標	正しい発音で話せるようになる。 日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。
授業計画	第1週:オリエンテーション 第2週:日本語のバリエーション(若者言葉、役割語、方言、言葉の男女差) 第3週:日本語のバリエーション(若者言葉、役割語、方言、言葉の男女差) 第4週:日本語のバリエーション(若者言葉、役割語、方言、言葉の男女差) 第5週:日本語のバリエーション(若者言葉、役割語、方言、言葉の男女差) 第6週:日本語のバリエーション(若者言葉、役割語、方言、言葉の男女差) 第7週:日本語のバリエーション(若者言葉、役割語、方言、言葉の男女差) 第8週:日本語のバリエーション(若者言葉、役割語、方言、言葉の男女差) 第9週:感動詞・応答詞、オノマトペ 第10週:感動詞・応答詞、オノマトペ 第11週:感動詞・応答詞、オノマトペ 第12週:発表準備 第13週:発表準備 第14週:発表準備 第15週:発表
テキスト等	ハンドアウト
成績評価	出席・タスク 55%, 発表 45%
コメント	積極的な授業参加を期待する。
オフィスアワー	火曜日 16:15-17:45

授業科目	日本語 7(聞くb)
担当教員	坂野英里
学期	後期
曜日/時間/教室	水曜日: 12:45-14:15, B22
定員	20
授業の概要	「聞く」技能に焦点を当てた授業である。授業ではニュースと映画の聞き取りを行い、それに関する意見交換も行う。ニュースや映画を聞きながら、時事表現や会話表現を習得すると共に日本文化に対する理解を深めて行く。
到達目標	日本語の聞く力を伸ばし、日本文化への理解を深める。
授業計画	第 1週:コースの説明 第 2週:ニュース、映画場面1 第 3週:ニュース、映画場面1 第 4週:ニュース、映画場面2 第 5週:ニュース、映画場面2 第 6週:ニュース、映画場面3 第 7週:ニュース、映画場面3 第 8週: 中間試験 第 9週:ニュース、映画場面4 第10週:ニュース、映画場面4 第11週:ニュース、映画場面5 第12週:ニュース、映画場面5 第13週:ニュース、映画場面6 第14週:ニュース、映画場面6 第15週:ニュース、映画場面6 第16週: 期末試験
テキスト等	プリント教材
成績評価	宿題・発表:30% 中間試験:30% 期末試験:40%
コメント	毎回聞き取りの宿題を出す。また、発表もあるが、その時はしっかり準備しておいてもらいたい。
オフィスアワー	水曜日 16:15-17:45

授業科目	初級会話
担当教員	秋田節子
学期	後期
曜日/時間/教室	火曜日： 8:40-10:10 , C23
定員	20
授業の概要	初めて学ぶ学生にとって岡山での生活に必要な日本語での会話を学ぶ。
到達目標	岡山での生活に必要な知識を得る。 初級の文法を使って、身近な場面でコミュニケーションできる。 最低限必要な情報を得るために、質問したり、相手の日本語を聞き取ったりすることができる。
授業計画	オリエンテーション、1課 自己紹介とあいさつ表現 第2週:1課 あいさつ表現、5課 買い物 第3週:3課 ファーストフード 第4週:4課 レストラン 第5週:2課 タクシーに乗る 第6週:5課 買い物 第7週:6課 時間をたずねる 第8週:7課 交通 第9週:7課 交通 第10週:8課 いつ、どこで、なにを？ 第11週:8課 いつ、どこで、なにを？ 第12週:9課 人付き合い 第13週:9課 人付き合い 第14週:10課 休みの日／期末試験 第15週:10課 休みの日／期末試験フィードバック
テキスト等	『For newcomers 日本語入門 NOHONGO Break through from survival to communication in Japanese』(アスク出版)¥1900 * 日本語1(AorB)クラスを履修していない学生は参考書として下記のを勧める。 『NOHONGO FUN&EASY Survival Japanese Conversation for Beginners』(アスク出版) ¥1995
成績評価	出席・授業参加 20% タスク×10 30% 期末試験 20% 小テスト×10 30%
コメント	岡山で楽しい経験をたくさんしましょう。おいしいラーメン屋やきれいなところ、お得なスーパーはどこですか？クラスでシェアしましょう。
オフィスアワー	

授業科目	読み書き 1
担当教員	梅川ゆう子
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日： 8:40-10:10 , C23 水曜日： 8:40-10:10 , C23
定員	20
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 初めて日本語を学習する人のためのクラス。 日本語の文字(ひらがな、カタカナ、漢字)を学習し、基本的な日本語の文章の読み書きを学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な日本語の文章の読み書きができるようになる。 基本的な日本語の文字の習得ができる。
授業計画	第 1週:第 1 課 ひらがな 第 2週:第 2 課 カタカナ 第 3週:漢字のオリエンテーション・ 第 4週:第 3 課 第 5週:第 4 課、小テスト 第 6週:第 5 課 第 7週:復習 第 8週:プレゼンテーション、中間テスト 第 9週:第 6 課 第10週:第 7 課 第11週:第 8 課 第12週:第 9 課 第13週:第 10 課 第14週:漢字の復習 第15週:読解・作文の復習
テキスト等	『初級日本語げんき 1[第2版]』 ジャパンタイムズ
成績評価	小テスト 30%、中間テスト 30%、期末テスト 30%、出席・授業参加度 10%
コメント	毎回の出席を望む。 レベル1の受講者は日本語1も併せて受講することを望む。
オフィスアワー	

授業科目	読み書き 2
担当教員	大平真紀子
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日: 14:30-16:00, C23
定員	20
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で 100 時間程度の日本語クラスを履修した人のためのクラス。 ・基本的な漢字を学習し、短い文章を読んだり書いたりする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な漢字が読んだり書いたりできるようになる。 ・短い文章を読んだり書いたりできるようになる。
授業計画	第 1 週:オリエンテーション・復習 第 2 週:第 11 課 第 3 週:第 12 課 第 4 週:第 12 課・復習 第 5 週:第 13 課 第 6 週:第 14 課 第 7 週:第 15 課 第 8 週:復習 第 9 週:第 16 課 第 10 週:第 17 課 第 11 週:第 18 課 第 12 週:第 19 課 第 13 週:第 20 課 第 14 週:第 21 課 第 15 週:総復習
テキスト等	『初級日本語げんき I, II [第 2 版]』ジャパンタイムズ
成績評価	テスト 80%、出席・授業参加度 10%、宿題・発表 10%
コメント	毎回の出席を望む。 レベル2の受講者は、「日本語 2」も併せて受講することを望む。
オフィスアワー	

授業科目	新聞・雑誌で学ぶ日本語
担当教員	秋田節子
学期	後期
曜日/時間/教室	木曜日: 12:45-14:15, C24
定員	20
授業の概要	新聞や雑誌、広告、チラシ、カタログ、市役所からの案内、漫画など日本語で書かれたさまざまなものを、みんなで楽しく読み、日本での生活を豊かにする情報を得る。
到達目標	読むことを通して、習った語彙や文法が実際にどのように使われているのかを知る。すべてが理解できなくても、わかっている言葉や文脈から類推する練習をする。
授業計画	第1週:オリエンテーションと自己紹介 第2&3週:1課 空港／銀行口座／国民健康保険の申し込み書／電子メール 第4&5週:2課 住宅の広告／家電／自動販売機 第6週:3課 地球温暖化フォーラムのポスター／防災用品 第7週:中間試験 第8週:4課 学園祭のパンフレット／新入生勧誘チラシ 第9週:5課 新聞記事(年末年始について) 第10週:6課 フィットネスクラブの広告／初診票 第11週:7課 チャットのやりとり／裸祭り 第12週:8課 新聞の投書欄／マスコミ 第13週:9課 求人広告／履歴書 第14週:10課 ホームページ／期末試験 第15週:10課 岡山の観光案内／期末試験フィードバック
テキスト等	『ドラえもののどこでも日本語』(小学館)¥2000
成績評価	出席・授業参加 20% 中間・期末試験 40% 小テスト×10 40%
コメント	友達や先生からもらったメール、スーパーのチラシや案内板、看板、何でもクラスに持って来て、一緒に読んでみましょう。
オフィスアワー	

授業科目	メディアリテラシー
担当教員	森岡明美
学期	後期
曜日/時間/教室	木曜日： 14:30-16:00 , C24
定員	20
授業の概要	最初に「メディアリテラシー」の概念を理解し、日常生活で、有形無形にメディアに洗脳されている実態を把握する。その後、メディアからの情報を批判的に検証する。
到達目標	与えられた情報を鵜呑みにしないで、検証的に聞いたり見たり読んだりできる市民になることが目標である。
授業計画	第1週:メディアリテラシーとは 第2-3週:新聞 第4-5週:雑誌 第6週:中間発表 第7-8週:インターネット 第9-10週:テレビ 第11-12週:コマーシャル 第13-14週:映画 第15週:期末発表
テキスト等	クラスで配布。
成績評価	試験(30%),書く課題(30%),話す課題(20%),期末発表(20%)
コメント	辞書を持参すること
オフィスアワー	木曜日 16:15-17:45

授業科目	プロジェクトワークで学ぶ日本語
担当教員	佐藤美穂
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日： 12:45-14:15 , B22
定員	20
授業の概要	協働作業による調査テーマの選定、企画、実施、報告によって、考える力、調べる力、日本語で表現し伝える力を伸ばす。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・協同作業を通じて自分の考えを検討し視野を広げる。 ・日本語で分かりやすく発表できるようになる。
授業計画	第 1 週： オリエンテーション 第 2 週： アンケート用紙を作る① 第 3 週： アンケート用紙を作る② 第 4 週： 資料の読み取り① 第 5 週： 資料の読み取り② 第 6 週： 効果的なプレゼンテーション① 第 7 週： 効果的なプレゼンテーション② 第 8 週： 効果的なプレゼンテーション③ 第 9 週： 発表①（グラフを使って発表する） 第10週： プロジェクトワークの準備① 第11週： プロジェクトワークの準備② 第12週： プロジェクトワークの準備③ 第13週： プロジェクトワークの準備④ 第14週： プロジェクトワークの準備⑤ 第15週： 発表②
テキスト等	プリント配布
成績評価	中間テスト 30%、期末テスト 50%、出席・授業参加 10%、課題提出 10%
コメント	辞書を持参すること。毎回の出席を望む。
オフィスアワー	

授業科目	日本を知ろう
担当教員	黒江理恵
学期	後期
曜日/時間/教室	火曜日： 12:45-14:15 , C23
定員	20
授業の概要	この授業では、日本の社会問題や日本人の行動・習慣などをよく観察し、その背後にあるものの見方や考え方、価値観などを理解することを目的としている。資料を読んだり、体験したりした後に、グループでの話し合いを通して考えを深める。
到達目標	読む力、書く力、話す力、聞く力を伸ばし、日本の社会、文化について理解を深める。
授業計画	<p>第1週目のオリエンテーションで学生のニーズ調査を行い、その結果をふまえて授業で扱うトピックを決める。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の宗教観 ・家族のあり方の変化 ・若者の人間関係 ・教育問題 ・マンガの神様 ・日本の輸入の歴史 ・ものづくり日本 ・政治家になるための条件
テキスト等	ハンドアウト
成績評価	出席・出席態度 30%、課題 70%
コメント	このクラスは「日本語5」以上の学生を対象としている。
オフィスアワー	なし

授業科目	中級文法・語彙 1
担当教員	青井由佳
学期	後期
曜日/時間/教室	月曜日： 8:40-10:10 , C12
定員	20
授業の概要	日本語能力試験 N3 レベルの文法・語彙を学ぶクラス 練習問題を通して文法や語彙を増やし、整理する
到達目標	中級文法・文型を増やして、日常的な日本語が理解できるようになる
授業計画	第 1 週:オリエンテーション 第 2 週:練習問題1 第 3 週:練習問題2 第 4 週:練習問題3 第 5 週:練習問題4 第 6 週:練習問題5 第 7 週:練習問題6 第 8 週:中間テスト 第 9 週:練習問題7 第10 週:練習問題8 第11 週:練習問題9 第12 週:練習問題 10 第13 週:練習問題 11 第14 週:練習問題 12 第15 週:期末テスト、フィードバックとまとめ
テキスト等	プリント配布
成績評価	期末テスト 40%、中間テスト 30%、出席 15%、宿題 15%
コメント	毎回宿題を出す
オフィスアワー	

平成24年9月10日

キャンパス・アジア事業推進委員会プロジェクトチーム決定

1 趣旨

「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」（以下「C・A人材育成プログラム」という。）実施のための共通科目（以下「C・A共通科目」という。）の開講及び履修に関し、必要な事項を定める。

2 C・A共通科目の定義

C・A共通科目とは、C・A人材育成プログラムに基づき、学部及び研究科に受入の留学生（以下「C・A学部留学生」又は「C・A大学院留学生」という。）への開講科目として、日・中・韓に共通する諸課題を取り上げた授業科目をいう。

3 C・A共通科目の選定・決定

- 1) C・A共通科目は、キャンパス・アジアプロジェクトチームにおいて、岡山大学で既の開講されている授業科目（以下、「既存科目」という。）の中から選定又は教育内容の充実化を図るため、新規に授業科目を開設するものとする。
- 2) 既存科目については、当該授業科目を開設する学部又は研究科及び担当教員に対し、キャンパス・アジア事業推進委員長から協力要請を行うものとする。
- 3) 大学院生を対象とするC・A共通科目（以下「大学院C・A共通科目」という。）の開講は、キャンパス・アジアプロジェクトチーム委員が開講する授業科目を中心に編成するものとする。
- 4) C・A人材育成プログラムで実施する「サマーセミナー」及び「ウィンターセミナー」における講義は、C・A共通科目として開設することができるものとする。
- 5) C・A共通科目の決定は、当該授業科目を開設する学部又は研究科の了解を得て、キャンパス・アジアプロジェクトチームにおいて行い、キャンパス・アジア事業推進委員会に報告する。

- 4) C・A共通科目の単位認定は、学則第13条及び大学院学則第12条の2の規定に基づき授業担当教員が行う。

5 履修

- 1) C・A学部留学生のC・A共通科目の履修は、5科目（計10単位）を上限とするが、当該プログラムの趣旨にかんがみ、2科目（4単位）以上の履修を推奨するものとする。
- 2) C・A大学院留学生は、受入研究科で受ける研究指導のほか、大学院C・A共通科目を履修することができるものとし、当該プログラムの趣旨にかんがみ、2科目（4単位）以上の履修を推奨するものとする。
- 3) C・A共通科目には、人文社会科学系の共通科目として、「東アジアの共通善の実現」に関連する授業科目を含むものとし、C・A学部留学生及びC・A大学院留学生の履修を推奨するものとする。
- 4) C・A共通科目は、岡山大学に在籍するC・A学部留学生及びC・A大学院留学生以外の学生も履修することができるものとする。

6 事務

C・A人材育成プログラムの共通科目に関する事務は、関係学部又は研究科及び協定校と連携し、国際センター事務室（キャンパス・アジア事務局）において行う。



OKAYAMA UNIV.

岡山大学国際センター
キャンパス・アジア

2013年2月 短期受入プログラム						
		1限	2限	3限	4限	5限
		8:40-10:10	10:25-11:55	12:45-14:15	14:30-16:00	16:15-17:45
2/2	土	岡山空港到着(20:00着)				
2/3	日			倉敷茶室見学・美観地区散策 12:00岡大出発、13:00茶道体験、15:30美観地区	ガイダンス	
2/4	月	日本語(書く) 三宅 B42	日本語(話す) 三宅 B42	副学長訪問 13:00荒木理事 15:30阿部理事	キャンパスツアー	歓迎会(18:00~20:00) ビーチユニオン4階
2/5	火	日本語(書く) 三宅 A42	日本語(話す) 三宅 A42	日本語(話す) 大野呂 B42	個別研修(酒井)	個別研修
2/6	水	日本語(書く) 加納 B42	日本語(話す) 加納 B42	個別研修	個別研修(酒井)	個別研修
2/7	木	日本語(書く) 大野呂 B42	日本語(話す) 大野呂 B42	個別研修	個別研修(酒井)	個別研修
2/8	金	日本語(書く) 佐藤 B42	日本語(話す) 加納 B42	日本文化講義 堤 B42	個別研修	個別研修
2/9	土	奈良研修旅行 8:00岡山大学出発 12:00ごろ奈良到着、昼食後東大寺、春日大社見学、ならまち見学(格子の家、ならまち資料館、ならまち物語館)、白鹿荘泊				
2/10	日	奈良研修旅行 8:00白鹿荘出発、法隆寺見学(天王寺IC経由) 大阪見学(心齋橋、道頓堀、難波) 18:20岡山大学到着予定				
2/11	月	自由行動				
2/12	火	日本語(書く) 三宅 A42	日本語(話す) 三宅 A42	日本語(話す) 大野呂 B42	個別研修(酒井)	個別研修(酒井)
2/13	水	日本語(書く) 加納 B42	日本語(話す) 加納 B42	韓国語スピーチ発表会~韓国語学習者との交流 13:00~16:00 C31		個別研修/学生交流
2/14	木	日本語(書く) 大野呂 B42	日本語(話す) 大野呂 B42	個別研修/学生交流	個別研修(酒井)/学生交流	個別研修/学生交流
2/15	金	日本語(書く) 佐藤 B42	日本語(話す) 佐藤 B42	日本文化講義 辻 B42	個別研修/学生交流	個別研修/学生交流
2/16	土	バスツアー(姫路・神戸) 8:00岡山大学出発、10:00~11:30姫路城見学 13:10から16:00神戸見学(元町、三宮) 18:50岡山大学到着予定				
2/17	日	自由行動				
2/18	月	日本語(書く) 三宅 B42	日本語(話す) 三宅 B42	個別研修/学生交流	個別研修(酒井)/学生交流	個別研修(酒井)/学生交流
2/19	火	日本語(書く) 三宅 B42	日本語(話す) 三宅 B42	個別研修/学生交流	個別研修(酒井)/学生交流	個別研修/学生交流
2/20	水	日本語(書く) 加納 B42	日本語(話す) 加納 B42	個別指導(文集作成・研究発表会準備)		
2/21	木	修了試験 佐藤 B42	評価 大野呂・佐藤・加納	研究発表会 大野呂・佐藤・加納 (14:30~16:30) B21	アンケート実施	歓送会(18:00~20:00) ビーチユニオン3階
2/22	金	岡山市内・史跡見学(グループ行動)・夏期成大韓国語研修予定者との懇談会				
2/23	土	帰国(9:40発)				

Korean Language Programs

Sungkyun Language Institute (SLI)

Sungkyun Language Institute (SLI) provides several Korean language programs in both campuses to help international students in experiencing the Korean culture, making Korean friends as well as learning the Korean language.

The flagship of the Korean programs is the Regular Korean Program which is held four sessions a year for 10 weeks each. By completing each session, students will level up from level 1 to level 6.

Regular Korean Program

Many international students who want to improve their Korean before applying to degree programs in Korean universities are choosing the Regular Korean Program at SLI. Another group of international students at SLI are ones who want to get a job after reaching level 6 of Regular Korean Program while making friends and experiencing Korea.

09:00 a.m. to 01:00 p.m. / five days a week / 10 weeks / total 200 hours

Extra Afternoon Classes

After the Regular Korean Program in the morning, SLI provides Extra Afternoon Classes for students' further understanding on the Korean language.

List of Extra Afternoon Classes: Korean Music Class, Korean Film Class, Advanced Writing Class, Pronunciation Class, Listening Class, etc.

Korean Cultural Activities

Learning Korean in the classrooms is not the only way! SLI provides hands-on Korean Cultural Activities during the Regular Korean Program by visiting places and doing outdoor activities.

Instructors and curriculums

Korean language programs at SLI are well known for the qualified instructors who are all educated in teaching Korean as a foreign language. Their eagerness to guide international students to the goal of speaking good Korean has devised a distinguishable curriculum and enhanced the reputation of the Korean language programs as SLI.

Excellent textbooks

SLI has developed learner-friendly textbooks: Easy to learn Korean 1 ~ 6 and Easy to speak Korean 1 ~ 12, which are also used in 14 universities in Korea and several universities in China and Thailand

Friends , SKKU buddies

International students at the Korean language programs are matched to their buddies called Friends, voluntary SKKU students who are willing to help students in learning and experiencing Korea and SKKU

Additional Korean Programs

SLI runs several more Korean language programs to meet students' demands: 3-week Korean Program in March and August; Evening Classes for the diplomats and business persons; Tailored Programs with and Samsung Electronics, National Institute of International Education (NIIED), and International Office, etc.

Contact Information for admission

E-mails		Website
Address	Languages	
koreaneng@skku.edu	English	http://koreansli.skku.edu
koreanjpn@skku.edu	Japanese	
koreanchn@skku.edu	Chinese	

吉林大学国际语言学院

暑期汉语（入门下）研修班课程表（日本、韩国）

时间：2012年8月6日—8月31日

前14教室

序号	日期	星期	课节	学 习 内 容
1.	8月6日	星期一	1—2节	汉语测试 发放教材计 琼梁亚东仲秋
			3—4节	汉语综合课 计 琼
2.	8月7日	星期二	1—2节	汉语综合课 计 琼
			3—4节	汉语综合课 计 琼
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
3	8月8日	星期三	1—2节	汉语听力课 梁亚东
			3—4节	汉语口语课 仲 秋
4	8月9日	星期四	1—2节	汉语综合课 计 琼
			3—4节	汉语综合课 计 琼
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
5	8月10日	星期五	1—2节	汉语听力课 梁亚东
			3—4节	汉语口语课 仲 秋
6	8月13日	星期一	1—2节	汉语综合课 计 琼
			3—4节	汉语综合课 计 琼
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
7	8月14日	星期二	1—2节	汉语综合课 计 琼
			3—4节	汉语综合课 计 琼
8	8月15日	星期三	1—2节	汉语听力课 梁亚东
			3—4节	汉语口语课 仲 秋
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
9	8月16日	星期四	1—2节	汉语综合课 计 琼
			3—4节	汉语综合课 计 琼
10	8月17日	星期五	1—2节	汉语听力课 梁亚东
			3—4节	汉语口语课 仲 秋
11	8月20日	星期一	1—2节	汉语综合课 计 琼
			3—4节	汉语综合课 计 琼
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
12	8月21日	星期二	1—2节	汉语综合课 计 琼
			3—4节	汉语综合课 计 琼
13	8月22日	星期三	1—2节	汉语听力课 梁亚东

			3—4 节	汉语口语课 仲 秋
			5—7 节	交际汉语实践（会话练习）
(14)	8 月 23 日	星期四	1—2 节	汉语综合课 计 琼
			3—4 节	汉语综合课 计 琼
15	8 月 24 日	星期五	1—2 节	汉语听力课 梁亚东
			3—4 节	汉语口语课 仲 秋
16	8 月 27 日	星期一	1—2 节	汉语综合课 计 琼
			3—4 节	汉语综合课 计 琼
			5—7 节	交际汉语实践（会话练习）
17	8 月 28 日	星期二	1—2 节	汉语综合课 计 琼
			3—4 节	汉语综合课 计 琼
18	8 月 29 日	星期三	1—2 节	汉语听力课 梁亚东
			3—4 节	汉语口语课 仲 秋
			5—7 节	交际汉语实践（会话练习）
19	8 月 30 日	星期四	1—2 节	汉语综合课 计 琼
			3—4 节	汉语综合课 计 琼
20	8 月 31 日	星期五	1—2 节	汉语结业考试 计 琼

上课时间：1—2 节：8：30—10：00 3—4 节：10：10—11：40

文化讲座：13：30—15：30 语言实践课：13：30—16：00

国际语言学院

中国文化讲座上课时间及地点：

	第一周	第二周	第三周	第四周
熊本学园大学	周四 8 教室	周五 8 教室	周五 8 教室	
金城西南冈山	周三 9 教室	周二 9 教室	周二 9 教室	周二 9 教室
成均馆大学	周五 8 教室	周四 8 教室	周四 8 教室	周四 8 教室

吉林大学国际语言学院

暑期汉语（基础）研修班课程表（日本、韩国）

时间：2012年8月6日—8月28日

前9教室

序号	日期	星期	课节	学 习 内 容
1.	8月6日	星期一	1—2节	汉语测试 发放教材邵 壮张晋涛仲秋
			3—4节	汉语综合课 邵 壮
2.	8月7日	星期二	1—2节	汉语听力课 张晋涛
			3—4节	汉语口语课 李春红
3	8月8日	星期三	1—2节	汉语综合课 邵 壮
			3—4节	汉语综合课 邵 壮
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
4	8月9日	星期四	1—2节	汉语听力课 张晋涛
			3—4节	汉语口语课 李春红
5	8月10日	星期五	1—2节	汉语综合课 邵 壮
			3—4节	汉语综合课 邵 壮
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
6	8月13日	星期一	1—2节	汉语综合课 邵 壮
			3—4节	汉语综合课 邵 壮
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
7	8月14日	星期二	1—2节	汉语听力课 张晋涛
			3—4节	汉语口语课 李春红
8	8月15日	星期三	1—2节	汉语综合课 邵 壮
			3—4节	汉语综合课 邵 壮
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
9	8月16日	星期四	1—2节	汉语听力课 张晋涛
			3—4节	汉语口语课 李春红
10	8月17日	星期五	1—2节	汉语综合课 邵 壮
			3—4节	汉语综合课 邵 壮
11	8月20日	星期一	1—2节	汉语综合课 邵 壮
			3—4节	汉语综合课 邵 壮
			5—7节	交际汉语实践（会话练习）
12	8月21日	星期二	1—2节	汉语听力课 张晋涛
			3—4节	汉语口语课 李春红
13	8月22日	星期三	1—2节	汉语综合课 邵 壮

			3—4 节	汉语综合课 邵 壮
			5—7 节	交际汉语实践（会话练习）
14	8 月 23 日	星期四	1—2 节	汉语听力课 张晋涛
			3—4 节	汉语口语课 李春红
15	8 月 24 日	星期五	1—2 节	汉语综合课 邵 壮
			3—4 节	汉语综合课 邵 壮
16	8 月 27 日	星期一	1—2 节	汉语综合课 邵 壮
			3—4 节	汉语综合课 邵 壮
			5—7 节	交际汉语实践（会话练习）
17	8 月 28 日	星期二	1—2 节	汉语听力课 张晋涛
			3—4 节	汉语口语课 李春红
18	8 月 29 日	星期三	1—2 节	汉语综合课 邵 壮
			3—4 节	汉语综合课 邵 壮
			5—7 节	交际汉语实践（会话练习）
19	8 月 30 日	星期四	1—2 节	汉语听力课 张晋涛
			3—4 节	汉语口语课 李春红
20	8 月 31 日	星期五	1—2 节	汉语结业考试 邵 壮

上课时间：1—2 节：8：30—10：00 3—4 节：10：10—11：40

文化讲座：13：30—15：30 语言实践课：13：30—16：00

国际语言学院

中国文化讲座上课时间及地点：

	第一周	第二周	第三周	第四周
熊本学园大学	周四 8 教室	周五 8 教室	周五 8 教室	
金城西南冈山	周三 9 教室	周二 9 教室	周二 9 教室	周二 9 教室
成均馆大学	周五 8 教室	周四 8 教室	周四 8 教室	周四 8 教室

2012年度成均館大学 キャンパスアジア科目

NO.	科目名	担当教員	時間	単位	言語
1	東アジアの現代古典	Hwang, Ho Duk 先生	2012 spring 15:00-17:45 (15min break)	3	韓国語
2	東アジアの古典学入門	Hwang, Ho Duk 先生	2012 autumn	3	韓国語
3	東アジアの総合疎通と漢字文明	Kim, Yong Tai 先生	2012 autumn 火曜、木曜 16:30-17:45	3	韓国語

2012年度吉林大学キャンパスアジア講義シリーズ(1単位)

シリーズ	講義名	担当教員(所属)	時間	場所	参加者	言語	URL
I	多次元の視点からみた東アジアの共同利益 (中国語)“东亚共同利益的多维视角”	劉徳斌教授 吉林大学国際関係研究所所長、交際交流與合作處處長、中国世界現代史研究会副理事長	2012/5/30(水) 14:30-15:30	吉林大学友誼会館第九教室	CAプログラム 三校参加学生	中国語	http://oic.jlu.edu.cn/oic/xwzx/xwzx_one_detail.php?new_num=628
II	中国・アメリカおよび東アジアの一体化 (中国語)“中国、美国与东亚一体化”	王秋彬准教授 吉林大学国際関係研究所	2012/6/6(水) 14:00-15:00	吉林大学友誼会館第一教室	CAプログラム 三校参加学生	中国語	http://oic.jlu.edu.cn/oic/xwzx/xwzx_one_detail.php?new_num=629
III	世界正義の尺度 (中国語)“世界正义的尺度”	何志鵬教授 吉林大学法学院	2012/6/8(金) 14:00-15:00	吉林大学友誼会館第六教室	CAプログラム 三校参加学生	中国語	http://oic.jlu.edu.cn/oic/xwzx/xwzx_one_detail.php?new_num=630
IV	日本語、韓国語における中国語、漢字の影響及び中日韓三国言語の相互関係とその文化の継承 (中国語)汉语汉字对日语韩语的影响以及中日韩三国语言间的相互影响及其文化承载	劉富華教授 吉林大学国際言語学院	2012/6/20(水) 14:00-15:00	吉林大学友誼会館第二教室	CAプログラム 三校参加学生	中国語	http://oic.jlu.edu.cn/oic/xwzx/xwzx_one_detail.php?new_num=640
V	中国伝統文化図解 (中国語)图解中国传统文化	漆思教授 吉林大学哲学社会学院	2012/6/25(月) 14:00-15:00	吉林大学友誼会館第一教室	CAプログラム 三校参加学生	中国語	http://oic.jlu.edu.cn/oic/xwzx/xwzx_one_detail.php?new_num=641

吉林大学国際言語学院学部生専攻に関する授業計画及び行程表

専攻：留学生中国語語学専攻

课程类别	课程性质	课程编码	课程名称	学时	学分	其中		建议修读学期及周学时							
						讲授	实验	1	2	3	4	5	6	7	8
学科基础课程	必修	0501200102	现代汉语	92	4	92				2	2	2			
		0501200202	汉语语言学	72	3	72								4	
		0501200302	中国文学	92	4	92							2	2	2
		0501200402	中国文化	76	3	76								2	4
		0501200502	中国概况	72	3	72				2	2				
		0402200602	中国武术	72	2	72		2	2						
			合计：	476	19	476									
	选修	0501300702	新闻语言	72	3	72				2	2				
		0501300802	汉外翻译	36	2	36								2	
		0501300902	汉字概论	36	2	36					2				
		0501301002	诸子百家讲读	36	2	36								2	
		0601301102	中国历史	72	3	72						2	2		
		0101301202	中国哲学	36	2	36									2
		0501301302	中外文化比较	36	2	36							2		
			合计：	324	16	324									
专业教育	必修	0501501402	汉语精读	884	42	884		12	10	8	8	4	4	2	2
		0501501502	汉语听力	216	10	216		4	4	2	2				
		0501501602	汉语阅读	252	12	252			2	4	4	4			
		0501501702	汉语口语交际	288	14	288		4	4			4	4		
		0501501802	汉语写作	108	5	108						2	2	2	
		0501501902	汉语视听说	72	3	72				2	2				
		0501502002	新闻听读	72	3	72						2	2		
		0501502102	汉语语法	72	3	72							2	2	
		0501502202	古代汉语	108	5	108						2	2	2	
		0501502302	毕业论文	160	10										
			合计：	2232	107	2232									
	选修	0501502402	商贸汉语	72	3	72				2	2				
		0501502502	中国旅游地理	36	2	36			2						
		0302502602	中国当代热门话题	54	3	54							3		
		0806502702	计算机中文处理	36	2	18	18					2			

课 程	选 课	0303502802	中国人口、家庭、社会	18	1	18						2			
		0201502902	中国当代经济改革专题研究	18	1	18								2	
			合计：	234	12	216	18								
		毕业生需修到 135 学分。加毕业论文 10 学分合计：145 学分。						22	24	24	26	26	25	22	10
	C 任 选 课	0501603002	当代影视作品赏析	18	1	18								2	
		0501603102	中国书法	18	1	18								2	
		0501603202	儒道佛研究	36	1.5	36							2		
		0501603302	中国现当代文学作品选	36	1.5	36								2	
		0501603402	中国艺术史	36	1.5	36							2		
		0501603502	中国古典诗歌赏析	36	1.5	36								2	
		0501603602	中文工具书使用	18	1	18					2				
		0501603702	中国教育	18	1	18					2				
		0501603802	宗教与中国文化	18	1	18						2			
		0501603902	语言文化社会实践	60	2	60									
			合计：	294	13	294									
											4	2	4	8	

吉林大学国际语言学院汉语进修课程设置：

汉语进修教学课程设置

课 型	课 程 名 称	周学时	课程学分	规定学分
必修课	初级汉语综合课(上)	12	12	24
	汉语听力(上)	4	4	
	汉语阅读(上)	4	4	
	汉语口语(上)	4	4	
总 学 分				24

一年级进修班下学期

课 型	课 程 名 称	周学时	课程学分	规定学分
必修课	初级汉语综合课(下)	10	10	26
	汉语听力(下)	4	4	
	汉语阅读(下)	4	4	
	汉语口语(下)	4	4	
选修课 (限选)	中国文化	2	2	
	新闻听读	2	2	
选修课 (任选)	太极拳	2	2	4
	商贸汉语	2	2	
总 学 分				30

吉林大学国际语言学院本科专业指导性教学计划及其进程表

专业： 国际贸易专业

课程类别	课程性质	课程编码	课程名称	学时	学分	其中		建议修读学期及周学时							
						讲授	实验	1	2	3	4	5	6	7	8
学科基础课程	B 必修课程	0501200102	汉语精读	296	16			4	4	4	4				
		0501200202	汉语听力	148	8			2	2	2	2				
		0501200302	汉语写作	72	4					2	2				
		0501200402	中国概况	80	4				4						
		0701200502	经济数学基础	220	12			4	4	2	2				
		0301200602	法学基础理论	34	2				2						
		0806200702	计算机中文处理	80	4	3/4	1/4	4							
专业教育课程	A 必修课程	0501500802	商贸汉语	296	16			4	4	4	4				
		0502500902	英语	296	20			4	4	4	4				
		0201501002	政治经济学	148	8			4	4						
		0201501102	西方经济学	80	6					4					
		0201501202	国际贸易	68	4						4				
		0201501302	会计学	68	3						4				
		0201501402	世界经济概论学	80	4					4					
	B 限选课	0601501602	中国历史	34	2				2						
		0101501702	中国哲学	34	2					2					
	C 任选课	0201601802	中国当代经济改革专题研究	1	18						1				
		0402601902	中国武术	2	72				2						



韓国・成均館大学校への長期派遣学生 集中講義カリキュラム

日時	時限	科目名	講義内容	教員
8 月 20 日 (月)	1	・文化とアイデンティティ	ディスカッション: 文化とアイデンティティ形成について、文化交流について	大林
	2	・英語・異文化コミュニケーション	Introduction: Meeting People	Paul R. Townsend
	3	・実践韓国語	① 翻訳(韓日、辞書使用可) ② 会話練習(上記の内容に基づいて) 【チューターの参加】	(白)
8 月 21 日 (火)	1	・日本文化と自分	ディスカッション: 日本の文化について	大林
	2	・英語・異文化コミュニケーション	Small Talk: Sharing Culture	Paul R. Townsend
	3	・実践韓国語	① 作文練習(韓国語「私の韓国留学」)60 分 ② 発表と会話練習 【チューター参加】	(白)
8 月 22 日 (水)	1	・東アジアにおける「共通善」(30 分) ・近現代日中韓三国関係と社会	① ※教室変更 (荒木理事室) (10:30~11:00) ② テーマ「歴史が語る三国関係—残された諸課題」 (レジュメ、関連文献資料の配布)	荒木、 大林、白
	2	・英語・異文化コミュニケーション	Residence / School Life	Paul R. Townsend
	3	・実践韓国語	① 翻訳練習(日韓、辞書使用可) ② 聴力練習と作文 【チューター参加】	白
8 月 23 日 (木)	1	・近現代日中韓三国関係と社会	テーマ「中韓両国の『日本観』」 (レジュメ、関連文献資料の配布)	白
	2	・英語・異文化コミュニケーション	Living in Seoul / Korea	Paul R. Townsend
	3	・実践韓国語	① 書きとり練習(韓国語) ② 会話強化練習 【チューター参加】	白
8 月 24 日 (金)	1	・近現代日中韓三国関係と社会	・テーマ「近くて遠かった中国と韓国—『脱亜論』から東アジアへの『復帰』」 (レジュメ、関連文献資料の配布)	白
	2	・英語・異文化コミュニケーション	Socializing / Traveling in Seoul & Korea	Paul R. Townsend
	3	・実践韓国語	① スピーチ(テーマ自由)20 分 ② 日韓学生交流(チューター、成均館大留学生の参加)	白

◆期間: 8 月 20 日(月)—24 日(金) 計 15 コマ

◆時限: 1 限(10:30~12:00)、2 限(13:00~14:30)、3 限(14:40~16:10)

◆教室: C23(一般教育棟 C 棟 2 階)

12 月 2012 年 (平成 24 年)

【3 限 : 12:45-14:15

4 限 : 14:30-16:00

5 限 : 16:15-17:45】

GT=グループチューター

Classroom:

C25

C25

C23

C25

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5 研修スタート⇒ 3 限 : 中国語 (GT) 14:20-: 研修ガイダンス 4 限 : ENGLISH ※ 5 限 : 韓国語 (GT) ※チューターマッチング	6 5 限 : 中国語 (白) 6 限 : 韓国語 (白)	7	8
9	10 1 限 : 韓国語 (白)	11 6 限 : 中国語 (白)	12 3 限 : 中国語 (GT) 4 限 : ENGLISH 5 限 : 韓国語 (GT)	13 5 限 : 中国語 (白) 6 限 : 韓国語 (白)	14	15
16	17 1 限 : 韓国語 (白)	18 6 限 : 中国語 (白)	19 3 限 : 中国語 (GT) 4 限 : ENGLISH 5 限 : 韓国語 (GT)	20 5 限 : 中国語 (白) 6 限 : 韓国語 (白)	21	22
23 天皇誕生日	24 振替休日	25 6 限 : 中国語 (白)	26 3 限 : 中国語 (GT) 4 限 : ENGLISH 5 限 : 韓国語 (GT)	27 5 限 : 中国語 (白) 6 限 : 韓国語 (白)	28	29
30	31	1 元日	2	3	4	5

1月 2013年 (平成25年)

【3限 : 12:45-14:15

4限 : 14:30-16:00

5限 : 16:15-17:45】

GT=グループチューター

Classroom:	C25	C25	C23	C25	金	土
日	月	火	水	木		
30	31	1 元日	2	3	4	5
6	7 1限 : 韓国語 (白)	8 6限 : 中国語 (白)	9 3限 : 中国語 (GT) 4限 : ENGLISH 5限 : 韓国語 (GT)	10 3限 : 韓国語 (白) 5限 : 中国語 (白)	11	12
13	14 成人の日	15 6限 : 中国語 (白)	16 3限 : 中国語 (GT) 4限 : ENGLISH 5限 : 韓国語 (GT)	17 3限 : 韓国語 (白) 5限 : 中国語 (白)	18	19
20	21 1限 : 韓国語 (白)	22 6限 : 中国語 (白)	23 3限 : 中国語 (GT) 4限 : ENGLISH 5限 : 韓国語 (GT)	24 3限 : 韓国語 (白) 5限 : 中国語 (白)	25	26
27	28 1限 : 韓国語 (白)	29 6限 : 中国語 (白)	30 3限 : 中国語 (GT) 4限 : ENGLISH 5限 : 韓国語 (GT)	31 3限 : 韓国語 (白) 5限 : 中国語 (白)	1	2

2月 2013年(平成25年)

【3限 : 12:45-14:15

4限 : 14:30-16:00

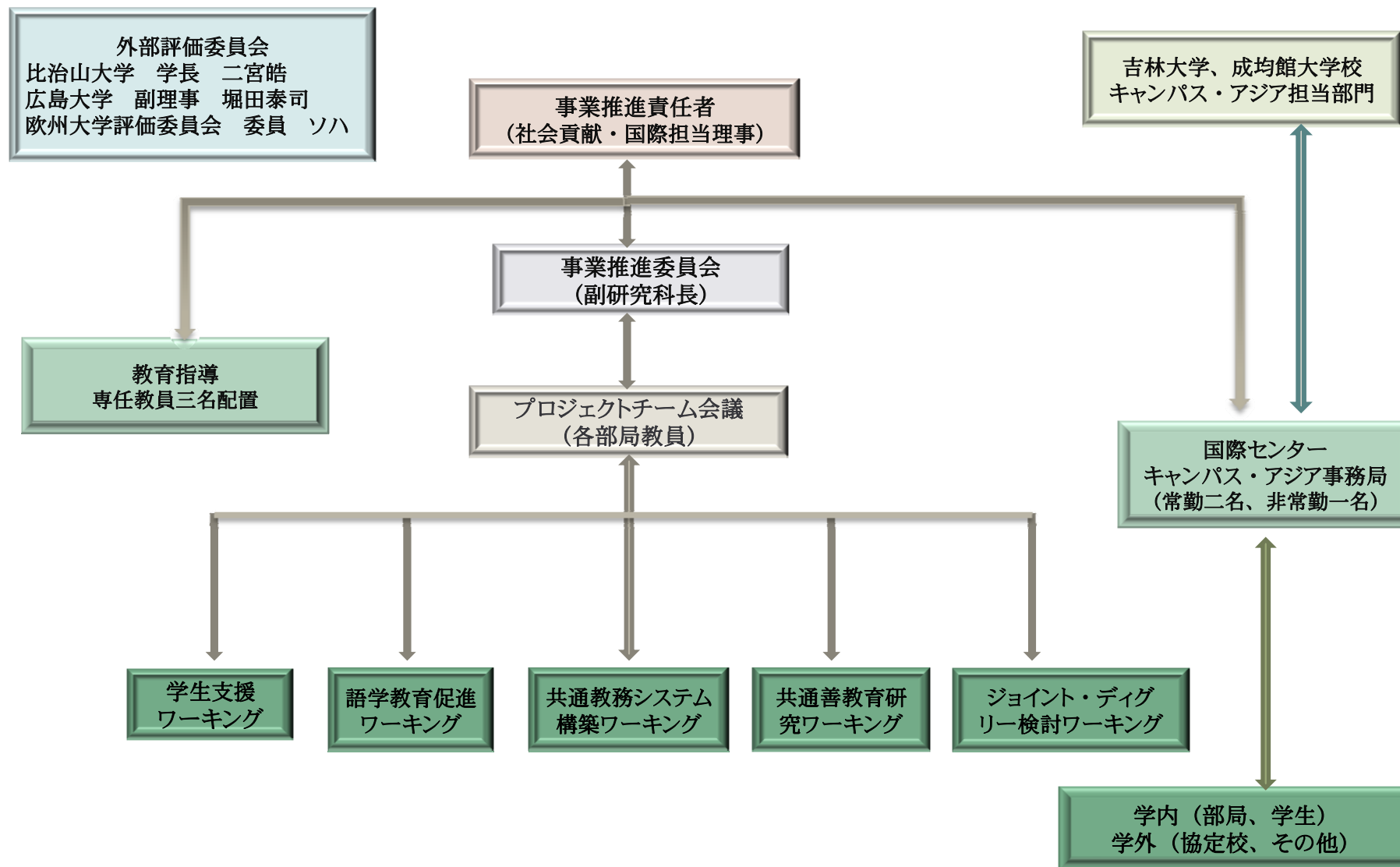
5限 : 16:15-17:45】

GT=グループチューター

Classroom:	C25	C25	C23	C25	金	土
日	月	火	水	木		
27	28	29	30	31	1	2
3	4 1限 : 韓国語 (白)	5 6限 : 中国語 (白)	6 3限 : 中国語 (GT) 4限 : ENGLISH 5限 : 韓国語 (GT)	7 3限 : 韓国語 (白) 5限 : 中国語 (白)	8	9
10	11 建国記念の日	12	13 集中 (中国語) (白)	14 集中 (韓国語) (白)	15 ←研修終了 出発前総括ガイダンス	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27 派遣学生 出発 (予定)	28	1	2

岡山大学キャンパス・アジア プログラム運営体制

1. 事業推進委員会は各部局の副科長クラスを配した全学態勢
2. 外部評価委員会を年一、二回開催し、事業を評価し、助言を受ける
3. 事務局は主体でアップ&ダウンで情報を行き渡り、計画を実施する



プログラム組織メンバー名簿Ⅰ

キャンパスアジア事業推進委員会委員名簿

H25年4月修正

所属	職名		氏名
	理事(社会貢献・国際担当)	◎	荒木 勝
大学院医歯薬学総合研究科(医)	副理事(社会貢献・国際担当)		二宮 善文
大学院社会文化科学研究科(経済)	教授	○	田口 雅弘
大学院社会文化科学研究科(法)	教授		張 紅
大学院自然科学研究科(理)	教授		西原 康師
大学院医歯薬学総合研究科(歯)	教授		長塚 仁
言語教育センター	准教授		陳 南澤
教育学研究科	副研究科長		高塚 成信
社会文化科学研究科	副研究科長		田中 共子
自然科学研究科	副研究科長		五福 明夫
保健学研究科	副研究科長		竹田 芳弘
環境学研究科	副研究科長		藤原 健史
医歯薬学総合研究科	副研究科長		浅海 淳一
言語教育センター	副センター長		竊持 淑
国際センター	准教授 (キャンパス・アジア専任教員)		白 榮勲
国際センター	准教授 (キャンパス・アジア専任教員)		廣畑 聡
国際センター	助教 (キャンパス・アジア専任教員)		大林 純子
学務部学務企画課	学務企画課長		坂本 泰彦
国際センター事務室	事務室長		山崎 征洋

◎…委員長
○…副委員長

キャンパスアジアプロジェクトチームメンバー名簿

(H25年4月修正)

所属	職名	氏名
	理事(社会貢献・国際担当) 国際センター長 CA事業推進委員会委員長	荒木 勝
大学院医歯薬学総合研究科(医)	副理事(社会貢献・国際担当)	二宮 善文
国際センター 大学院社会文化科学研究科(経済)	副センター長 プログラムマネージャ 教授	田口 雅弘
国際センター 大学院医歯薬学総合研究科(歯)	副センター長 プログラムサブマネージャ 教授	長塚 仁
大学院自然科学研究科(理)	プログラムサブマネージャ 教授	西原 康師
大学院社会文化科学研究科(法)	教授	張 紅
大学院社会文化科学研究科(文)	教授	辻 星児
大学院環境生命科学研究科(農)	教授	村田 芳行
新医療研究開発センター	教授	那須 保友
大学院環境生命科学研究科(環)	教授	金 科哲
言語教育センター	准教授	陳 南澤
大学院社会文化科学研究科(法)	准教授	吾妻 聡
大学院医歯薬学総合研究科(薬)	准教授	金 恵淑
大学院社会文化科学研究科(東アジア)	准教授	土屋 洋
国際センター	准教授 (キャンパス・アジア専任教員)	白 榮勲
国際センター	准教授 (キャンパス・アジア専任教員)	廣畑 聡
国際センター	助教 (キャンパス・アジア専任教員)	大林 純子
国際センター事務室	事務室長 副センター長	山崎 征洋

プログラム組織メンバー名簿Ⅱ

共通善教育研究会メンバー名簿

H25年4月改正

所属	職名	氏名
	理事(社会貢献・国際担当) 国際センター長 CA事業推進委員会委員長	荒木 勝
大学院社会文化科学研究科(法)	教授	張 紅
大学院社会文化科学研究科(法)	准教授	吾妻 聡
国際センター	准教授 (キャンパス・アジア専任教員)	白 栄勲
大学院社会文化科学研究科(文)	教授	姜 克実
大学院社会文化科学研究科(文)	教授	遊佐 徹
言語教育センター	准教授	孫 路易
吉林大学	教授	沈 海濤
成均館大学校	准教授	金 龍泰
多摩大学	教授	金 美德
都留文科大学	教授	邊 英浩

学生支援ワーキング名簿

(H25年4月修正)

所属	職名	氏名
国際センター 大学院社会文化科学研究科(経済)	副センター長 プログラムマネージャ 教授	田口 雅弘
大学院自然科学研究科(理)	プログラムサブマネージャ 教授	西原 康師
大学院社会文化科学研究科(法)	教授	張 紅
大学院社会文化科学研究科(文)	教授	辻 星児
言語教育センター	准教授	陳 南澤
大学院社会文化科学研究科(東アジア)	准教授	土屋 洋
国際センター	准教授 (キャンパス・アジア専任教員)	白 栄勲
国際センター	准教授 (キャンパス・アジア専任教員)	廣畑 聡
国際センター	助教 (キャンパス・アジア専任教員)	大林 純子
キャンパスアジア事務局	プログラム・オフィサー	云 洪凌
	アシスタント	増田 鈴子